

青森県埋蔵文化財調査報告書 第423集

三内丸山遺跡30

平成 17 年度

青森県教育委員会

青森県埋蔵文化財調査報告書 第423集

三内丸山遺跡30

—旧野球場建設予定地発掘調査報告書7—

平成 17 年度

青森県教育委員会

序

青森市に所在する三内丸山遺跡は、青森県総合運動公園拡張整備事業に係る新県営野球場建設に先立ち、平成4年度から県教育委員会が発掘調査を行ってまいりました。

調査の結果、本遺跡は縄文時代・平安時代・中世の複合遺跡であることが明らかとなりました。特に大規模な遺構、多種多量の出土遺物から、縄文時代前期中葉から中期にかけて約1500年以上継続して営まれた円筒土器文化を代表する大規模な集落跡であることが判明しました。

本書はその成果の一部をまとめたものですが、今後三内丸山遺跡の解明及び埋蔵文化財の保護と研究に役立てば幸いです。

最後に調査及び本書作成にご尽力いただいた関係各位に対し、厚くお礼申し上げます。

平成18年3月31日

青森県教育委員会

教育長 花 田 隆 則

例 言

- 1 本報告書は、平成4～6年度に実施した青森県総合運動公園拡張整備事業に係る三内丸山遺跡の発掘調査のうち、旧野球場建設予定地で「三内丸山(2)遺跡Ⅱ」(平成5年度 青森県教育委員会)で報告済の3基側スタンド部分を除く区域の縄文時代の竪穴遺構・配石遺構・焼土遺構・掘立柱建物跡の報告書である。このうち掘立柱建物跡については、北盛土北側(グリッドVI0～VI7-88～93)と集落中央部(グリッドVF～VM-104111)で平成4～6年度に検出された分の報告書である。残りの縄文時代の掘立柱建物跡及び柱穴については来年度以降に報告書を刊行する予定である。他の遺構の報告書については『特別史跡三内丸山遺跡発掘調査報告書一覧』(p76)を参考にさせていただきたい。
- 2 調査の概要については、「三内丸山遺跡X」(青森県埋蔵文化財調査報告書第250集、平成9年度 青森県教育委員会)の「第1章 調査に至る経過と調査要項」、「第2章 調査の方法と経過」、「第3章 遺跡の概要」を参照されたい。
- 3 三内丸山遺跡は、平成14年3月29日付けで周知の遺跡範囲に変更がなされている。旧遺跡名での小三内遺跡(旧遺跡番号01017)、近野遺跡(同01065)の一部、三内丸山遺跡(1)遺跡(同01020)、三内丸山(2)遺跡(同01021)が統合され、三内丸山遺跡となった。新遺跡番号は01021番である。
- 4 本遺跡の遺構番号は種類毎に通し番号を付してある。
- 5 挿図の縮尺は、各図に示している。
- 6 遺構図面の記載にあたっては、土器-P、石器-Sの略号を用いた。
- 7 掘立柱建物跡については発掘調査時及び整理作業時に高島成侑 前八戸工業大学教授の指導を受けた。
- 8 石器・石製品の石材の種類鑑定については、山口義伸青森県立浪岡高等学校教諭に依頼した。
- 9 遺構・遺物の文・図中での表現は原則として次の様式・基準に従った。
 - (1) 遺構番号は一部を除いて発掘調査時のものを用いている。
 - (2) 図面等瑕疵により、一部については掲載していない。
 - (3) 遺構内外の堆積土の注記は、「新版標準土色帖」(小山・竹原1990)を用いた。
 - (4) 原則として、遺物には観察表・計測表を付し、出土地点、分量及び諸特徴を一覧できるようにした。
 - (5) 遺構名については、配置図・観察表中で以下の略称で表記している。
第○号焼土遺構-○焼 第○号土坑-○土 第○号ピット-○P
第○号掘立柱建物跡-○掘立
 - (6) 縄文原体は山内清男「日本先史土器の縄紋」(先史考古学会 1979)を参考に分類し、記述はそれに従った。ただし、観察表では以下のように省略した。
結節回転文-結回、単軸絡条体○類-単絡○、多軸絡条体-多軸絡
また表中では、縄文原体の回転文の場合は種類のみ、押圧文の場合は種類の後に「押」を付している。隆帯・貼付上の施文文様は「隆帯」・「貼付」の後ろに括弧書きした。

(7) 石質は以下のように略称する。

玉髓—玉、頁岩—頁、玉髓質珪質頁岩—玉珪、珪質頁岩—珪頁、黒曜石—黒、鉄石英—鉄、凝灰岩—凝、安山岩—安、流紋岩—流、閃緑岩—閃、緑色細粒凝灰岩—緑細凝、軽石—軽

(8) 図中に使用したスクリーントーンは以下のものを表す。



地山



石器磨面



石器敲打痕



石器光沢



柱痕跡・木柱

10 遺物の分類

遺物は次のように分類した。

(1) 土器

第Ⅰ群 縄文時代早期

第Ⅱ群 縄文時代前期

1類 前期初頭に比定される土器群

2類 円筒下層 a 式に比定されるもの

3類 円筒下層 b 式に比定されるもの

4類 円筒下層 c 式に比定されるもの

5類 円筒下層 d 式に比定されるもの

さらに2つに細分する 1 d₁式

2 d₂式

6類 1～5類で時期を特定できないもの

第Ⅲ群 縄文時代中期

1類 円筒上層 a 式に比定されるもの

2類 円筒上層 b 式に比定されるもの

3類 円筒上層 c 式に比定されるもの

4類 円筒上層 d 式に比定されるもの

5類 円筒上層 e 式に比定されるもの

6類 1～5類で時期を特定できないもの

7類 榎林式以前に位置づけられる大木式土器系のもの

8類 榎林式に位置づけられるもの

9類 最花式・中ノ平Ⅲ式に位置づけられるもの

10類 大木10式併行に比定されるもの

11類 8～10類で時期を特定できないもの

第Ⅳ群 縄文時代後期

第Ⅴ群 縄文時代晩期

第Ⅵ群 弥生時代

第Ⅶ群 古墳時代

第Ⅷ群 古代

第Ⅸ群 中世以降

(2) 石器

A類 石鏃

a 有茎T基のもの

b 有茎Y基 ☒

c 尖基 ☒

d 平基 ☒

e 円基 ☒

f 凹基 ☒

B類 石槍

a 無茎のもの

b 有茎 ☒

C類 石匙

a 縦型のもの（以下のd・eに該当するものを除く）

b 横型のもの（ ☒ ）

c 斜型のもの（ ☒ ）

d	両面加工で石楡状の先端をもつもの	L類	石皿・台石類
e	＊ 石錐状の ＊	M類	石棒類
f	四角形の短辺部分に抉りをもち、長辺部分を刃部とするもの	a	石棒
g	細部加工がほとんど加えられないもの	b	石刀
D類	石錐	N類	石錐
a	棒状のもの	a	両端に抉りをいれたもの
b	つまみがあるもの（以下のcに該当するものを除く）	b	溝を削りこんだもの
c	先端のみつくりだしたもの	O類	石冠
d	石鏃を転用したもの	a	北海道式石冠
E類	石篋	b	三角柱状等の形状を持つ磨製石器
a	短冊型のもの	P類	石核類
b	撥型 ＊	a	石核
F類	ビエス・エスキーユ	b	原石
G類	不定形石器	c	剥片・碎片
a	いわゆるスクレイパー類	Q類	その他
b	＊ R、フレイク	R類	異形石器
c	＊ U、フレイク	S類	砥石
H類	石斧	a	楕円礫を素材とし、顕著な擦痕を持つもの
a	磨製石斧	b	扁平あるいは板状の礫を素材とするもの
b	打製石斧	T類	軽石・軽石製品
I類	蔽磨器類	a	加工の認められないもの
a	主に凹のあるもの	b	加工の認められるもの
b	＊ 蔽打痕 ＊	U類	角柱状の礫・礫石器
c	＊ 磨痕 ＊	a	使用痕・加工痕の認められないもの
J類	半円状扁平打製石器	b	使用痕・加工痕の認められるもの
K類	袂入扁平磨製石器	V類	擦切具
		W類	礫

- 11 発掘調査における出土遺物、実測図、写真等は現在、青森県教育庁文化財保護課三内丸山遺跡対策室が保管している。
- 12 旧野球場建設予定地内で調査された竪穴遺構・配石遺構・焼土遺構・掘立柱建物跡に関しては、本書がこれに先立つ全ての資料・報文等に優先する。

目 次

序	
例 言	
目 次	
第IV章 縄文時代の検出遺構と出土遺物	
第4節 竪穴遺構	1
第5節 配石遺構	5
第6節 焼土遺構	7
第7節 掘立柱建物跡（1）	20
(遺構図版)	34
(遺物図版)	65
報告書一覧	76
報告書抄録	78

第4節 竪穴遺構

第13号竪穴遺構（1～4図）

〔位置と確認〕 VI G-111・112 に位置する。第Ⅲ層中で確認した。大きさは小型の竪穴住居跡に近いが、不整形で炉・柱穴が確認できず竪穴遺構とした。

〔重複〕 第120号溝と重複し、本遺構が古い。

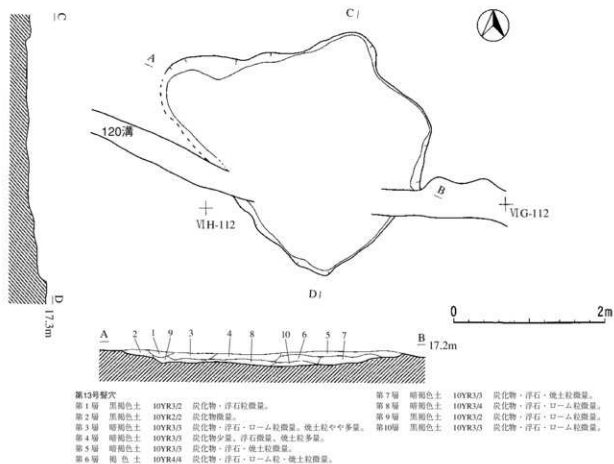
〔平面形・規模〕 平面形は東西に長軸のある不整形である。規模は長軸3.6m、短軸2.8mで床面積は10㎡である。

〔壁・底面〕 壁はゆるやかに立ちあがる。壁高は、東壁6cm、西壁7cm、南壁8cm、北壁10cmである。

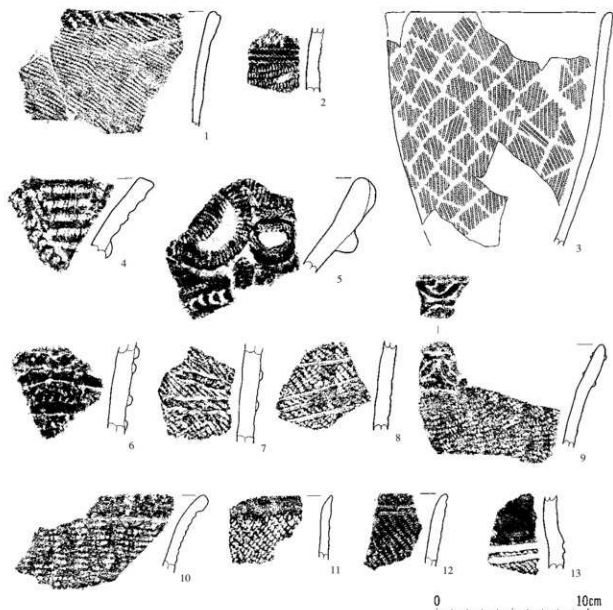
〔堆積土〕 10層に区分した。暗褐色土を主体とする。

〔出土遺物〕 土器は底面直上からⅢ群5類が、その他堆積土からはⅡ群5類1～Ⅲ群11類までの土器片が出土した。石器は堆積土からスクレイパー類5点、R.フレイク4点、剥片3点、敵磨器類6点（敵主体2点、磨主体4点）が出土した。

〔時期〕 堆積土出土土器から、縄文時代中期後葉と考えられる。



1図 第13号竪穴遺構



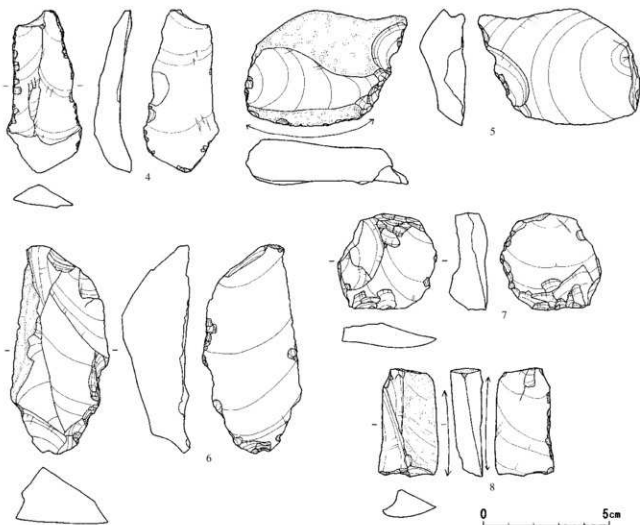
番号	出土地点	層位	外 面 文 種			内面調整	底面	分類	備 考	整理番号
			口縁部	胴部上半	胴部下半					
1	13号竖穴	底直	RL押	RL		ミガキ		Ⅲ-5		
2	〃	堆積土	LR押	多軸結		〃		Ⅱ-4・5-1		
3	〃	〃	RL	RL		〃		Ⅲ-8・11	炭(胴外)	
4	〃	〃	星(波線結), 刺線			〃		Ⅱ-5-2		
5	〃	〃	星(波線結), 刺線			〃		Ⅲ-2	波状口縁	
6	〃	〃		星(波線結), 刺線		〃		Ⅲ-4		
7	〃	〃		RL、星付(RL?)		〃		〃		
8	〃	〃		RL、沈線		〃		Ⅲ-5		
9	〃	〃	突起(貼付), LR	LR		〃		〃	突起内面に貼付	
10	〃	〃	栞透	LR				Ⅲ-11		
11	〃	〃	無文	RL		ミガキ		〃		
12	〃	〃	無文	RL、沈線				Ⅲ-9		
13	〃	〃	無文	RL、沈線		ミガキ		〃		

2 図 第13号竖穴遺構出土遺物(1)



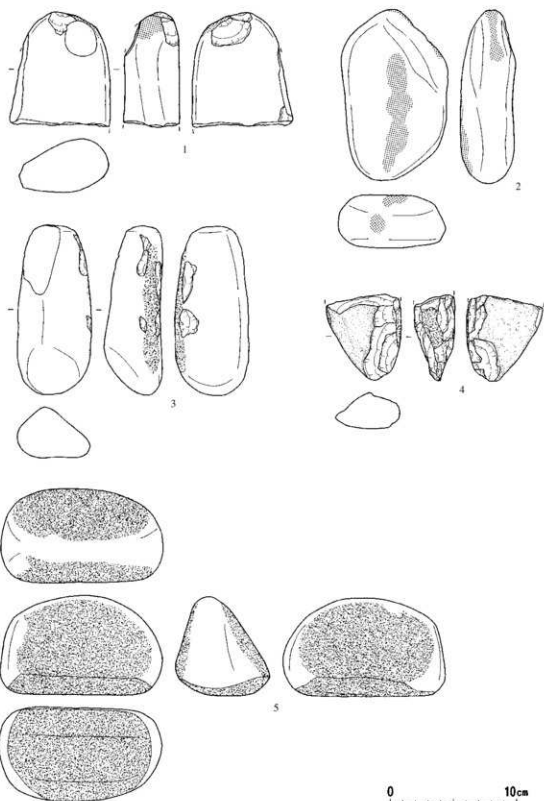
0 10cm

番号	出土地点	層位	外 面 文 様		内面調整	底面	分類	備 考	整理番号
			口縁部	胴部上半 下半					
1	13号堅穴	堆積土		直線(縦, 半環)			Ⅱ-9		
2	*	*		直線(縦, 半環)	ミガキ		Ⅱ-11	炭(外)	
3	*	*	RL+L(付加糸)	RL+L(付加糸)		*	*	炭(外)	



番号	出土地点	層位	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重さ(g)	材質	分類	備考	整理番号
4	13号堅穴	ワケ土	65	29	15	16.8	珪質	Ga	焼け	51675
5	*	*	46	64	18	48.6	*	*		51680
6	*	*	83	39	27	60.1	*	Gh		51682
7	*	*	38	40	15	18.2	*	Ga	ピエス・エスキーユ?	51678
8	*	*	43	23	13	11.9	*	*		51671

3 図 第13号堅穴遺構出土遺物(2)



番号	出土地点	層位	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重さ (g)	石質	分類	備考	整理番号
1	13号竖穴	埋積土	(91)	(80)	(44)	(314.3)	安	Ib		52765
2	〃	〃	138	85	43	625.5	〃	〃		52763
3	〃	〃	134	58	46	446.5	〃	Ic		52764
4	〃	〃	(68)	(59)	(32)	(134.1)	〃	〃		52762
5	〃	〃	79	128	75	1,059.9	〃	〃		52766

4 図 第13号竖穴遺構出土遺物 (3)

第5節 配石遺構

第4号配石遺構（5図）

〔位置と確認〕 VIK-111に位置する。南盛土精査中に6個の石のまとまりとして確認した。

〔重複・新旧〕 なし。

〔範囲と特徴〕 東西30cm南北54cmの小範囲に分布する。丸みのある6点の礫で構成され、うち1点は欠損した棒状の礫である。

〔付属遺構〕 下部に土坑等の遺構は確認できなかった。

〔出土遺物〕 縄文時代中期の土器片が3点出土した。

〔時期〕 縄文時代中期である。

第5号配石遺構（5図）

〔位置と確認〕 VIM-115に位置する。南盛土精査中に5個の石のまとまりとして確認した。

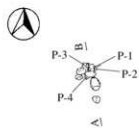
〔重複・新旧〕 なし。

〔範囲と特徴〕 東西34cm南北34cmの小範囲に分布する。丸みのある礫4点と、板状の礫1点で構成される。S-1・4は焼けていないが、S-2は焼けており、S-3・5も焼けの可能性はある。S-5は欠損がある。

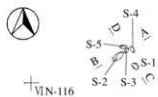
〔付属遺構〕 下部に土坑等の遺構は確認できなかった。

〔出土遺物〕 なし。

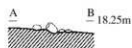
〔時期〕 南盛土中に形成されており縄文時代中期である。



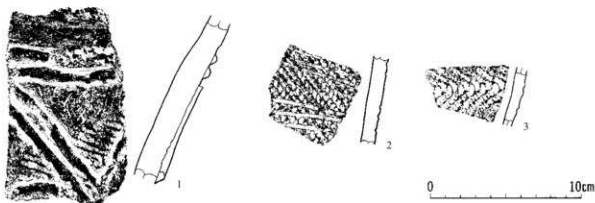
VIK-112



第 5 号配石



第 4 号配石



番号	出土地点	層位	外 面 文 様		内面調整	底面	分類	備 考	整理番号
			口縁部	胴部上半					
1	4号配石			RL、貼付		1/4半	Ⅲ-4	P-3	
2	×			RLR、沈線	*		Ⅲ-5	P-4	
3	×			筋束I (LR、RL)	*		Ⅲ-6	P-2	

5 図 第 4・5 号配石遺構・出土遺物

第6節 焼土遺構

第3号焼土遺構（6図）

- 〔位置と確認〕 VI E-86 に位置する。北盛土精査中に確認した。
- 〔平面形・規模〕 長さは62cmで最大幅が38cm、焼土層の厚さは12cmである。
- 〔出土遺物〕 なし。
- 〔時期〕 北盛土中に形成されており、縄文時代中期である。

第4号焼土遺構（6図）

- 〔位置と確認〕 VI E-86 に位置する。北盛土精査中に確認した。
- 〔平面形・規模〕 長さは44cmで最大幅が34cm、焼土層の厚さは2cmである。
- 〔出土遺物〕 なし。
- 〔時期〕 北盛土中に形成されており、縄文時代中期である。

第5号焼土遺構（6図）

- 〔位置と確認〕 VI E-86 に位置する。北盛土精査中に確認した。
- 〔平面形・規模〕 長さは72cmで最大幅が40cm、焼土層の厚さは6cmである。
- 〔出土遺物〕 なし。
- 〔時期〕 北盛土中に形成されており、縄文時代中期である。

第6号焼土遺構（6図）

- 〔位置と確認〕 VI E-86 に位置する。北盛土精査中に確認した。
- 〔平面形・規模〕 長さは110cmで最大幅が22cm、焼土層の厚さは16cmである。
- 〔出土遺物〕 なし。
- 〔時期〕 北盛土中に形成されており、縄文時代中期である。

第7号焼土遺構（6図）

- 〔位置と確認〕 VI D-87 に位置する。北盛土精査中に確認した。
- 〔平面形・規模〕 長さは44cmで最大幅が36cm、焼土層の厚さは10cmである。
- 〔出土遺物〕 なし。
- 〔時期〕 北盛土中に形成されており、縄文時代中期である。

第8号焼土遺構（6図）

- 〔位置と確認〕 VI D-86 に位置する。北盛土精査中に確認した。
- 〔平面形・規模〕 長さは32cmで最大幅が29cm、焼土層の厚さは2cmである。
- 〔出土遺物〕 なし。
- 〔時期〕 北盛土中に形成されており、縄文時代中期である。

第9号焼土遺構（6図）

〔位置と確認〕 VID-88 に位置する。北盛土精査中に確認した。

〔平面形・規模〕 長さは68cmで最大幅が52cm、焼土層の厚さは12cmである。

〔出土遺物〕 なし。

〔時期〕 北盛土中に形成されており、縄文時代中期である。

第10号焼土遺構（6図）

〔位置と確認〕 VID-87 に位置する。北盛土精査中に確認した。

〔平面形・規模〕 長さは39cmで最大幅が38cm、焼土層の厚さは8cmである。

〔出土遺物〕 なし。

〔時期〕 北盛土中に形成されており、縄文時代中期である。

第11号焼土遺構（6図）

〔位置と確認〕 VID-86 に位置する。北盛土精査中に確認した。

〔平面形・規模〕 長さは36cmで最大幅が33cm、焼土層の厚さは3cmである。

〔出土遺物〕 なし。

〔時期〕 北盛土中に形成されており、縄文時代中期である。

第12号焼土遺構（6図）

〔位置と確認〕 VID-86 に位置する。北盛土精査中に確認した。

〔平面形・規模〕 長さは36cmで最大幅が29cm、焼土層の厚さは8cmである。

〔出土遺物〕 なし。

〔時期〕 北盛土中に形成されており、縄文時代中期である。

第13号焼土遺構（6図）

〔位置と確認〕 VID-88 に位置する。北盛土精査中に確認した。

〔平面形・規模〕 長さは38cmで最大幅が24cm、焼土層の厚さは4cmである。

〔出土遺物〕 なし。

〔時期〕 北盛土中に形成されており、縄文時代中期である。

第14号焼土遺構（6図）

〔位置と確認〕 VI E-88 に位置する。北盛土精査中に確認した。

〔平面形・規模〕 長さは23cmで最大幅が19cm、焼土層の厚さは4cmである。

〔出土遺物〕 なし。

〔時期〕 北盛土中に形成されており、縄文時代中期である。

第16号焼土遺構（7図）

- 〔位置と確認〕 VII F-111 に位置する。第Ⅲ層中で確認した。
- 〔重複〕 複数の柱穴と重複し、本遺構が古い。
- 〔平面形・規模〕 現存長は98cmで最大幅が80cm、焼土層の厚さは14cmである。
- 〔出土遺物〕 なし。
- 〔時期〕 確認層位から縄文時代と考えられる。

第18号焼土遺構（7図）

- 〔位置と確認〕 VID-88 に位置する。北盛土精査中に確認した。
- 〔平面形・規模〕 長さは36cmで最大幅が16cm、焼土層の厚さは5cmである。
- 〔出土遺物〕 なし。
- 〔時期〕 北盛土中に形成されており、縄文時代中期である。

第20号焼土遺構（7図）

- 〔位置と確認〕 VID-88 に位置する。北盛土精査中に確認した。
- 〔平面形・規模〕 長さは30cmで最大幅が21cm、焼土層の厚さは6cmである。
- 〔出土遺物〕 なし。
- 〔時期〕 北盛土中に形成されており、縄文時代中期である。

第22号焼土遺構（7図）

- 〔位置と確認〕 VID-87 に位置する。北盛土精査中に確認した。
- 〔平面形・規模〕 長さは23cmで最大幅が16cm、焼土層の厚さは4cmである。
- 〔出土遺物〕 なし。
- 〔時期〕 北盛土中に形成されており、縄文時代中期である。

第23号焼土遺構（7図）

- 〔位置と確認〕 VID-87 に位置する。北盛土精査中に確認した。
- 〔平面形・規模〕 長さは26cmで最大幅が20cm、焼土層の厚さは4cmである。
- 〔出土遺物〕 なし。
- 〔時期〕 北盛土中に形成されており、縄文時代中期である。

第24号焼土遺構（7図）

- 〔位置と確認〕 VII C-112 に位置する。第Ⅲ層中で確認した。
- 〔平面形・規模〕 長さは60cmで最大幅が56cm、焼土層の厚さは17cmである。
- 〔出土遺物〕 なし。
- 〔時期〕 確認層位から縄文時代と考えられる。

第25号焼土遺構（7図）

〔位置と確認〕 VI C・D-88 に位置する。北盛土精査中に確認した。

〔平面形・規模〕 長さは33cmで最大幅が30cm、焼土層の厚さは8cmである。

〔出土遺物〕 なし。

〔時期〕 北盛土中に形成されており、縄文時代中期である。

第26号焼土遺構（7図）

〔位置と確認〕 VI C-88 に位置する。北盛土精査中に確認した。

〔平面形・規模〕 長さは41cmで最大幅が26cm、焼土層の厚さは9cmである。

〔出土遺物〕 なし。

〔時期〕 北盛土中に形成されており、縄文時代中期である。

第27号焼土遺構（7図）

〔位置と確認〕 VI D・E-89 に位置する。北盛土精査中に確認した。

〔平面形・規模〕 長さは50cmで、最大幅が30cmである。

〔出土遺物〕 なし。

〔時期〕 北盛土中に形成されており、縄文時代中期である。

第30号焼土遺構（7図）

〔位置と確認〕 VI E-91 に位置する。北盛土精査中に確認した。

〔平面形・規模〕 長さは45cmで最大幅が34cm、焼土層の厚さは8cmである。

〔出土遺物〕 なし。

〔時期〕 北盛土中に形成されており、縄文時代中期である。

第31号焼土遺構（7図）

〔位置と確認〕 VI C-91 に位置する。北盛土精査中に確認した。

〔平面形・規模〕 長さは52cmで最大幅が38cm、焼土層の厚さは6cmである。

〔出土遺物〕 なし。

〔時期〕 北盛土中に形成されており、縄文時代中期である。

第32号焼土遺構（7図）

〔位置と確認〕 VI E-90 に位置する。北盛土精査中に確認した。

〔平面形・規模〕 長さは46cmで最大幅が40cm、焼土層の厚さは6cmである。

〔出土遺物〕 なし。

〔時期〕 北盛土中に形成されており、縄文時代中期である。

第33号焼土遺構（8図）

- 〔位置と確認〕 VII C-112 に位置する。第Ⅲ層中で確認した。
- 〔平面形・規模〕 長さは60cmで最大幅が57cm、焼土層の厚さは5cmである。
- 〔出土遺物〕 なし。
- 〔時期〕 確認層位から縄文時代と考えられる。

第34号焼土遺構（8図）

- 〔位置と確認〕 VII C-112 に位置する。第Ⅲ層中で確認した。
- 〔平面形・規模〕 長さは84cmで最大幅が44cm、焼土層の厚さは5cmである。
- 〔出土遺物〕 なし。
- 〔時期〕 確認層位から縄文時代と考えられる。

第35号焼土遺構（8図）

- 〔位置と確認〕 VII B-110 に位置する。第Ⅲ層中で確認した。
- 〔平面形・規模〕 長さは48cmで最大幅が46cm、焼土層の厚さは11cmである。
- 〔出土遺物〕 なし。
- 〔時期〕 確認層位から縄文時代と考えられる。

第36号焼土遺構（8図）

- 〔位置と確認〕 VII B-110 に位置する。第Ⅲ層中で確認した。
- 〔平面形・規模〕 長さは54cmで最大幅が46cm、焼土層の厚さは8cmである。
- 〔出土遺物〕 なし。
- 〔時期〕 確認層位から縄文時代と考えられる。

第37号焼土遺構（8図）

- 〔位置と確認〕 VII B-110 に位置する。第Ⅲ層中で確認した。
- 〔平面形・規模〕 長さは34cmで最大幅が22cmである。
- 〔出土遺物〕 なし。
- 〔時期〕 確認層位から縄文時代と考えられる。

第38号焼土遺構（8図）

- 〔位置と確認〕 VI C-88 に位置する。北盛土精査中に確認した。
- 〔平面形・規模〕 長さは36cmで最大幅が32cm、焼土層の厚さは6cmである。
- 〔出土遺物〕 なし。
- 〔時期〕 北盛土中に形成されており、縄文時代中期である。

第39号焼土遺構（8図）

〔位置と確認〕 VII B-110 に位置する。第Ⅲ層中で確認した。

〔平面形・規模〕 長さは60cmで最大幅が30cm、焼土層の厚さは8cmである。

〔出土遺物〕 なし。

〔時期〕 確認層位から縄文時代と考えられる。

第40号焼土遺構（8・10図）

〔位置と確認〕 VII C-111 に位置する。第Ⅲ層中で確認した。

〔平面形・規模〕 長さは51cmで最大幅が31cmである。

〔出土遺物〕 堆積土から第Ⅲ群土器が出土した。

〔時期〕 確認層位から縄文時代と考えられる。

第45号焼土遺構（8図）

〔位置と確認〕 VID-92 に位置する。北盛土精査中に確認した。

〔平面形・規模〕 長さは66cmで最大幅が24cm、焼土層の厚さは16cmである。

〔出土遺物〕 なし。

〔時期〕 北盛土中に形成されており、縄文時代中期である。

第46号焼土遺構（8図）

〔位置と確認〕 VID-92 に位置する。北盛土精査中に確認した。

〔平面形・規模〕 長さは54cmで最大幅が36cm、焼土層の厚さは5cmである。

〔出土遺物〕 なし。

〔時期〕 北盛土中に形成されており、縄文時代中期である。

第47号焼土遺構（8図）

〔位置と確認〕 VID-92 に位置する。北盛土精査中に確認した。

〔平面形・規模〕 長さは60cmで最大幅が50cm、焼土層の厚さは3cmである。

〔出土遺物〕 なし。

〔時期〕 北盛土中に形成されており、縄文時代中期である。

第48号焼土遺構（8・10図）

〔位置と確認〕 VII F-112 に位置する。第Ⅲ層中で確認した。

〔平面形・規模〕 長さは101cmで最大幅が73cm、焼土層の厚さは22cmである。

〔出土遺物〕 堆積土から第Ⅲ群土器が出土した。

〔時期〕 確認層位から縄文時代と考えられる。

第49号焼土遺構（8・10図）

〔位置と確認〕 VII-E-F-112 に位置する。第Ⅲ層中で確認した。

〔平面形・規模〕 長さは94cmで最大幅が33cm、焼土層の厚さは11cmである。

〔出土遺物〕 堆積土から第Ⅲ群土器が出土した。

〔時期〕 確認層位から縄文時代と考えられる。

第51号焼土遺構（8図）

〔位置と確認〕 VI-E-122 に位置する。第Ⅲ層中で確認した。

〔平面形・規模〕 長さは72cmで最大幅が62cm、焼土層の厚さは5cmである。

〔出土遺物〕 なし。

〔時期〕 確認層位から縄文時代と考えられる。

第54号焼土遺構（9図）

〔位置と確認〕 VI-C-89 に位置する。北盛土精査中に確認した。

〔平面形・規模〕 長さは62cmで最大幅が38cm、焼土層の厚さは8cmである。

〔出土遺物〕 なし。

〔時期〕 北盛土中に形成されており、縄文時代中期である。

第66号焼土遺構（9図）

〔位置と確認〕 VI-E-83 に位置する。北盛土精査中に確認した。

〔平面形・規模〕 長さは50cmで最大幅が36cm、焼土層の厚さは5cmである。

〔出土遺物〕 なし。

〔時期〕 北盛土中に形成されており、縄文時代中期である。

第67号焼土遺構（9・10図）

〔位置と確認〕 VI-G-116 に位置する。南盛土精査中に確認した。

〔平面形・規模〕 長さは148cmで最大幅が133cmで、焼土層の厚さは11cmである。

〔出土遺物〕 堆積土から第Ⅲ群土器が出土した。

〔時期〕 南盛土中に形成されており、縄文時代中期である。

第72号焼土遺構（9図）

〔位置と確認〕 VI-I-85 に位置する。北盛土精査中に確認した。

〔平面形・規模〕 長さは70cmで最大幅が44cm、焼土層の厚さは7cmである。

〔出土遺物〕 なし。

〔時期〕 北盛土中に形成されており、縄文時代中期である。

第73号焼土遺構（9図）

〔位置と確認〕 VI I - 84・85 に位置する。北盛土精査中に確認した。

〔平面形・規模〕 長さは50cmで最大幅が40cm、焼土層の厚さは10cmである。

〔出土遺物〕 なし。

〔時期〕 北盛土中に形成されており、縄文時代中期である。

第76号焼土遺構（9図）

〔位置と確認〕 VI I - 83 に位置する。北盛土精査中に確認した。

〔平面形・規模〕 長さは36cmで最大幅が30cm、焼土層の厚さは3cmである。

〔出土遺物〕 なし。

〔時期〕 北盛土中に形成されており、縄文時代中期である。

第83号焼土遺構（9・10図）

〔位置と確認〕 VI L - 118 に位置する。第Ⅲ層中で確認した。

〔平面形・規模〕 長さは108cmで最大幅が72cm、焼土層の厚さは8cmである。

〔出土遺物〕 堆積土から第Ⅲ群土器が出土した。

〔時期〕 確認層位から縄文時代と考えられる。

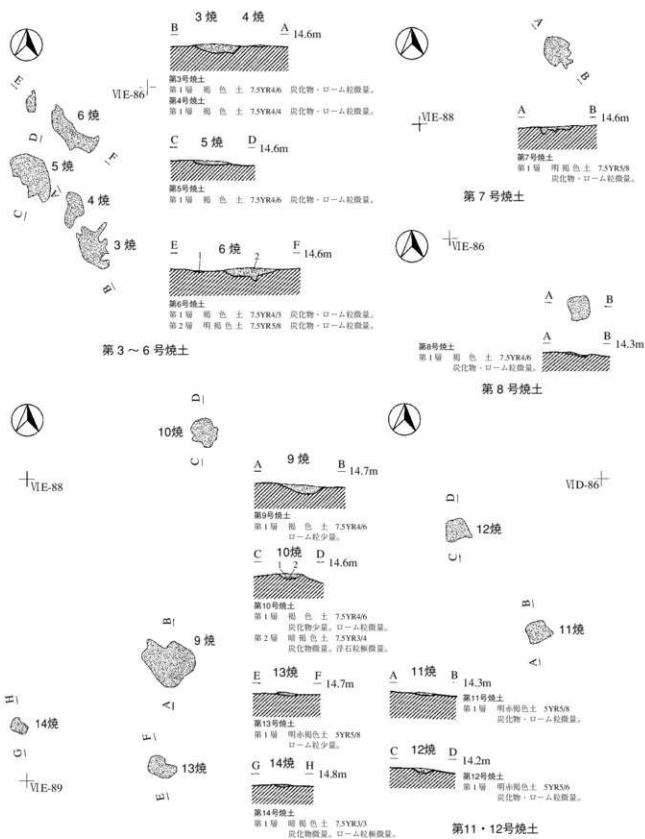
第84号焼土遺構（9図）

〔位置と確認〕 VI I - 81 に位置する。北盛土精査中に確認した。

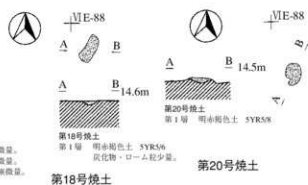
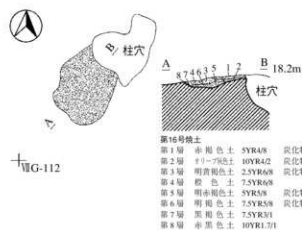
〔平面形・規模〕 長さは42cmで最大幅が36cm、焼土層の厚さは6cmである。

〔出土遺物〕 なし。

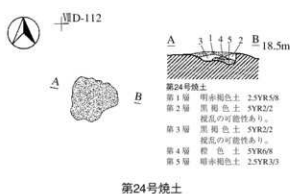
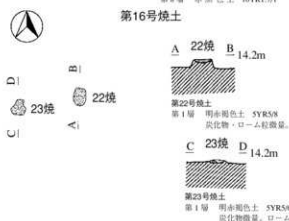
〔時期〕 北盛土中に形成されており、縄文時代中期である。



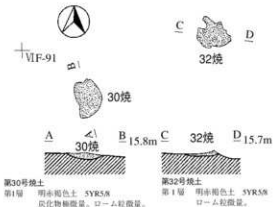
6图 第3~14号烧土遺構



第16号焼土

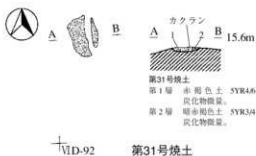
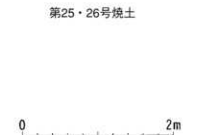


第22・23号焼土

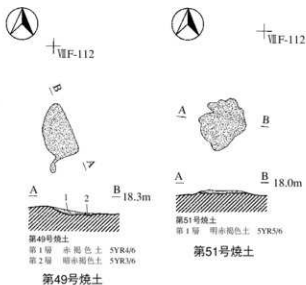
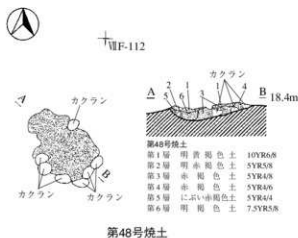
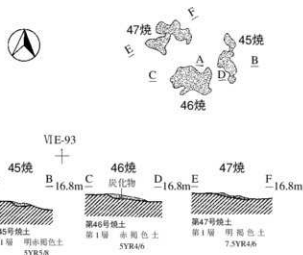
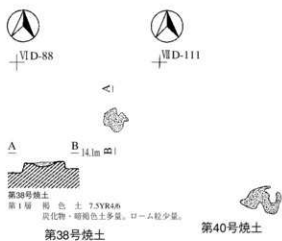
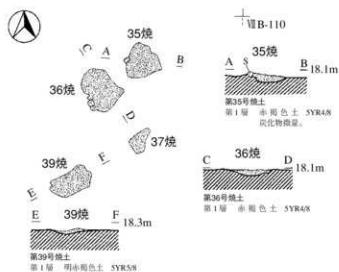
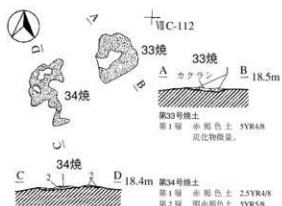


第30・32号焼土

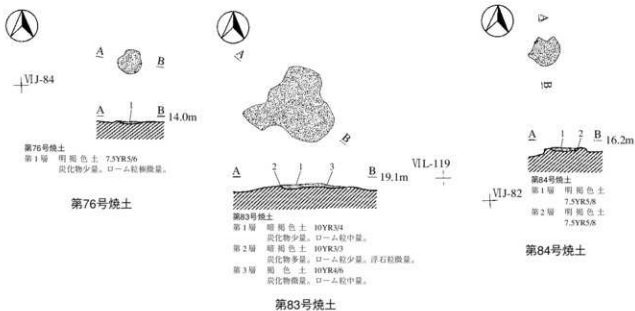
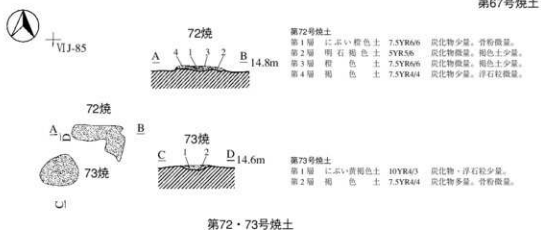
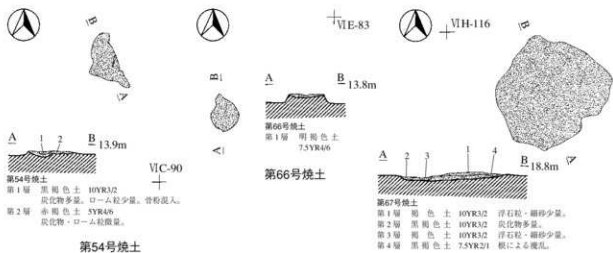
第25・26号焼土



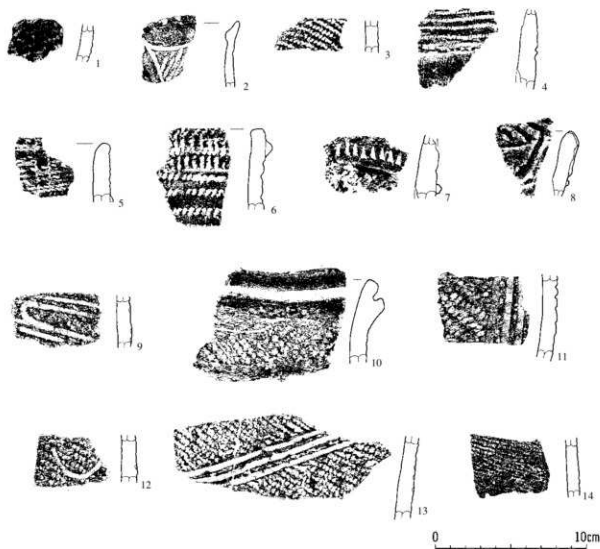
7 図 第16・18・20・22~27・30~32号焼土遺構



8 図 第33～40・45～49・51号焼土遺構



9 図 第54・66・67・72・73・76・83・84号烧土遺構



番号	出土地点	層位	外 面 文 様			内面調整	底面	分類	備 考	整理番号
			口縁部	胴部上半	胴部下半					
1	40焼土	堆積土		RL				Ⅲ-6		
2	48焼土	*	磨消 (沈線, RL)			ミガキ		Ⅲ-10	内面に隆帯	
3	*	*		LR		*		Ⅲ-11		
4	49焼土	*	R単軸1押、刺突	R単軸1		*		Ⅱ-5-1	縦溝混入	
5	*	*	LR押、刺突			*		*	縦溝混入	
6	*	*	ⅢLR細線, L結縞			*		Ⅱ-5-2	縦溝混入	
7	67焼土	1-2		Ⅲ (刺突), 刺突		*		Ⅲ-3		
8	*	*	貼付	貼付		*		Ⅲ-4	波状口縁	
9	*	*		LR、沈線		*		Ⅲ-5		
10	*	*	凹状沈線	RLR		*		Ⅲ-8	波状口縁	
11	*	*		LR、沈線		*		Ⅲ-8-9		
12	*	*		LR、沈線		*		Ⅲ-9-10		
13	83焼土			RL、沈線		*		Ⅲ-8		
14	*			RL				Ⅲ-11		

10図 第40・48・49・67・83号焼土遺構出土遺物

第7節 掘立柱建物跡(1)

平成4～6年度の調査では、主に集落北西部、中央部、南西部の3箇所掘立柱建物跡の柱穴が検出された。このうち平成4年度に調査した旧3塁側スタンド予定地区で検出した5棟については、「三内丸山②遺跡Ⅱ」で報告済みである。ここでは、平成4年度に集落北西部で、また主に平成5・6年度に集落中央部で検出した分を中心に報告する。それ以外の掘立柱建物跡は次年度以降に報告予定である。

第11号掘立柱建物跡(11図・13図・43図)

〔位置と確認〕 VI R～VI T-89～91に位置する。Ⅲ層で円形の落ち込みを確認した。発掘調査時には個々にビット番号を付し、精査を行った。

〔重複〕 XOY2(第722号ビット)が、第12号掘立柱建物跡XOY2(第723号ビット)と重複し、本遺構が新しい。またXOY2(第722号ビット)は第731号ビット、第747号ビットと重複し、第731号ビットより新しく、第747号ビットより古い。

〔規模〕 桁行3間(総長9.8m)、梁行1間(総長5m)である。主軸方位はN-47°-Eである。

〔平面形式〕 梁行X列間の柱間寸法がそれぞれの桁行Y列の柱間寸法よりやや長い長方形を呈する。

〔柱穴・柱痕〕 掘り方は確認面で径114～175cm、深さは105～150cmである。柱痕跡はXOY3を除く柱穴で認められた。いずれも円形ないしは不整形円形を呈する。

〔柱穴寸法〕 桁方向で2.55～2.90m、梁方向では3.56～3.60mである。

〔出土遺物〕 第Ⅲ群を中心とした土器が出土した。石器は北海道式石冠、石核、角柱状の礫が出土した。

〔時期〕 堆積土出土土器から縄文時代中期と考えられる。

第12号掘立柱建物跡(12～14図・44図)

〔位置と確認〕 VI Q～VI S-89～91に位置する。Ⅲ層で円形の落ち込みを確認した。発掘調査時には個々にビット番号を付し、精査を行った。

〔重複〕 XOY0(第710号ビット)が第729号ビットと重複し、最も新しい。XOY1(第712号ビット)が第14号掘立柱建物跡X1Y0と重複し、本遺構が新しい。X1Y2(第733号ビット)が第14号掘立柱建物跡X1Y2(第732号ビット)、第734号ビット、第757号ビットと重複し、第14号掘立柱建物跡・第734号ビットより新しく、第757号ビットより古い。X1Y1(第705号ビット)が第706号ビットと重複し、本遺構が古い。またX1Y2(第723号ビット)が第11号掘立柱建物跡XOY2、第731号ビット、第747号ビットと重複し、本遺構が第11号掘立柱建物跡・第747号ビットより古く、第731号ビットより新しい。

〔規模〕 桁行2間(総長9.2m)、梁行1間(総長6.7m)である。主軸方位はN-45°-Eである。

〔平面形式〕 梁行X列間がそれぞれの桁行Y列の柱間寸法よりやや長い長方形を呈する。

〔柱穴・柱痕〕 掘り方は確認面で径120～215cm、深さは55～120cmである。柱痕跡はXOY2を除く柱穴で認められた。いずれも円形ないしは不整形円形を呈する。XOY2では木柱が残存していた。来年度以降他の木柱とあわせて図示する予定である。

〔柱穴寸法〕 桁方向で4.46～4.64m、梁方向では4.32～4.42mである。

〔出土遺物〕 第Ⅲ群を中心とする土器が出土した。石器は石錐等が出土した。

〔時期〕 堆積土出土土器から、縄文時代中期と考えられる。

第13号掘立柱建物跡（14図・45図）

〔位置と確認〕 VIQ-S-90～92に位置する。Ⅲ層で円形の落ち込みを確認した。発掘調査時には個々にビット番号を付し、精査を行った。

〔重複〕 X0Y0（第742号ビット）が第14号掘立柱建物跡（第718号ビット）、第1458号ビットと重複し、本遺構が最も古い。X0Y1（第740号ビット）が第739号ビットと重複し、本遺構が古い。X1Y1（第746号ビット）が第745号ビットと重複し、本遺構が新しい。

〔規模〕 桁行2間（総長8.3m）、梁行1間（総長4.9m）である。主軸方位はN-48°-Eである。

〔平面形式〕 梁行X列間とそれぞれの桁行Y列の柱間寸法がほぼ等しい長方形を呈する。

〔柱穴・柱痕〕 掘り方は確認面で径150～195cm、深さは74～112cmである。柱痕跡は認められなかった。

〔柱穴寸法〕 桁方向で3.38～3.56m、梁方向では3.56～3.62mである。

〔出土遺物〕 第Ⅲ群を中心とする土器が出土した。石器はスクレイパー類が出土した。

〔時期〕 堆積土出土土器から、縄文時代中期と考えられる。

第14号掘立柱建物跡（15図・17図・46図）

〔位置と確認〕 VIQ-R-90～92に位置する。Ⅲ層で円形の落ち込みを確認した。発掘調査時には個々にビット番号・土坑番号を付し、精査を行った。

〔重複〕 X0Y0（第718号ビット）が第13号掘立柱建物跡X0Y0（第742号ビット）、第1452号ビットと重複し、第13号掘立柱建物跡より新しく、第1458号ビットより古い。X1Y0（第711号ビット）が第12号掘立柱建物跡X0Y1（第712号ビット）と重複し、本遺構が古い。X1Y2（第732号ビット）が第12号掘立柱建物跡X0Y2（第733号ビット）と重複し、第12号掘立柱建物跡より古い。

〔規模〕 桁行2間（総長8.5m）、梁行1間（総長5m）である。主軸方位はN-47°-Eである。

〔平面形式〕 梁行X列間がそれぞれの桁行Y列の柱間寸法よりやや長い長方形を呈する。

〔柱穴・柱痕〕 掘り方は確認面で径125～195cm、深さは50～125cmである。柱痕跡はすべての柱穴に認められた。いずれも円形ないしは不整形を呈する。

〔柱穴寸法〕 桁方向で3.06～3.30m、梁方向では3.36～3.58mである。

〔出土遺物〕 第Ⅲ群を中心とする土器が出土した。石器は蔽磨器類が出土した。

〔時期〕 堆積土出土土器から、縄文時代中期と考えられる。

第15号掘立柱建物跡（16図・17図・46図・47図）

〔位置と確認〕 VIP-R-91～93に位置する。Ⅲ層で円形の落ち込みを確認した。発掘調査時には個々にビット番号・土坑番号を付し、精査を行った。

〔重複〕 X1Y0（第725号ビット）が第724号ビットと重複し、本遺構が新しい。

- 〔規模〕 桁行2間（総長8.4m）、梁行1間（総長5.2m）である。主軸方位はN-58°-Eである。
- 〔平面形式〕 長方形を呈する。桁行Y列の柱間寸法は、東側がやや短い。
- 〔柱穴・柱痕〕 掘り方は確認面で径110～180cm、深さは104～161cmである。柱痕跡はすべての柱穴に認められた。いずれも円形ないしは不整形を呈する。
- 〔柱穴寸法〕 桁方向で2.98～3.58m、梁方向では3.54～3.56mである。
- 〔出土遺物〕 第Ⅲ群を中心とする土器が出土した。石器はスクレイパー類が出土した。
- 〔時期〕 堆積土出土土器から、縄文時代中期と考えられる。

第32号掘立柱建物跡（19図・47図・50図）

- 〔位置と確認〕 VI G-I-106・107に位置する。Ⅲ層で円形の落ち込みを確認した。発掘調査時には個々にビット番号を付し、精査を行った。
- 〔重複〕 X0Y0（第6180号ビット）が第58号掘立柱建物跡X0Y2と、X1Y0（第531号土坑）は第58号掘立柱建物跡X1Y2と重複しているが、新旧関係は不明である。X0Y1（第8693号ビット）も2基の柱穴が重複しているようだが、新旧関係は不明である。
- 〔規模〕 桁行2間（総長8.2m）、梁行1間（総長4.9m）である。主軸方位はN-85°-Wである。
- 〔平面形式〕 長方形を呈する。桁行Y列の柱間寸法は東側が短い。
- 〔柱穴・柱痕〕 掘り方は確認面で径46～62cm、深さは120～145cmである。X0Y0・X1Y0を除く柱穴で柱痕跡を確認した。
- 〔柱穴寸法〕 桁方向で3.32～3.55m、梁方向では4.02～4.16mである。
- 〔出土遺物〕 第Ⅲ群を中心とする土器が出土した。石器はR.フレイク等が出土した。
- 〔時期〕 堆積土出土土器から、縄文時代中期と考えられる。

第41号掘立柱建物跡（20図・50図）

- 〔位置と確認〕 VL・M-105・106 に位置する。Ⅲ層で円形の落ち込みを確認した。本遺構の一部は第42号掘立柱建物跡X0Y2・X1Y2とともに当初第8号掘立柱建物跡とされたが、整理作業の際に、西側の2つの柱穴（現第42号掘立柱建物跡X0Y2・X1Y2）が別遺構と認識されたため、新たに番号を付けた。
- 〔重複〕 X1Y1は第42号掘立柱建物跡と重複しているが、新旧関係は不明である。またX0Y1、X0Y2、X1Y1、X1Y2は他の掘立柱建物跡を構成する可能性のある柱穴と重複しているが、新旧関係は不明である。
- 〔規模〕 桁行2間（総長4.6m）、梁行1間（総長2.8m）である。主軸方位はN-89°-Eである。
- 〔平面形式〕 長方形を呈する。桁行Y列の柱間寸法は西側が短い。
- 〔柱穴・柱痕〕 掘り方は確認面で径46～62cm、深さは32～68cmである。柱痕跡は確認されなかった。
- 〔柱穴寸法〕 桁方向で1.82～2.26m、梁方向では2.16～2.18mである。
- 〔出土遺物〕 円盤状土製品が出土した。
- 〔時期〕 確認状況から、縄文時代中期と考えられる。

第42号掘立柱建物跡 (20図)

〔位置と確認〕 VM・N-105・106に位置する。Ⅲ層で円形の落ち込みを確認した。発掘調査時には個々にビット番号を付し、精査を行った。

〔重複〕 X0Y2・X1Y2が第41号掘立柱建物跡と重複するが、新旧関係は不明である。

〔規模〕 桁行2間(総長6m)、梁行1間(総長3.4m)である。主軸方位は $N-83^{\circ}-E$ である。

〔平面形式〕 長方形を呈する。梁行X列間とそれぞれの桁行Y列の柱間寸法がほぼ等しい。

〔柱穴・柱痕〕 掘り方は確認面で径54～105cm、深さは45～99cmである。柱痕跡は確認されなかった。

〔柱穴寸法〕 桁方向で2.38～2.80m、梁方向では2.60～2.62mである。

〔出土遺物〕 なし。

〔時期〕 確認状況から、縄文時代中期と考えられる。

第43号掘立柱建物跡 (21図)

〔位置と確認〕 VO-R-105～107に位置する。Ⅲ層で円形の落ち込みを確認した。発掘調査時には個々にビット番号を付し、精査を行った。

〔重複〕 X1Y1(第6212号ビット)が第44号掘立柱建物跡X0Y0と、X1Y2(第6222号ビット)が第44号掘立柱建物跡X0Y2と重複するが、新旧関係は不明である。

〔規模〕 桁行2間(総長11.8m)、梁行1間(総長3.8m)である。主軸方位は $N-91^{\circ}-W$ である。

〔平面形式〕 梁行X列間がそれぞれの桁行Y列の柱間寸法より短い長方形を呈する。

〔柱穴・柱痕〕 掘り方は確認面で径90～134cm、深さは75～90cmである。柱痕跡はすべての柱穴に認められた。いずれも円形ないしは不整形を呈する。

〔柱穴寸法〕 桁方向で5.30～5.46m、梁方向では2.04～2.80mである。

〔出土遺物〕 なし。

〔時期〕 確認状況から、縄文時代中期と考えられる。

第44号掘立柱建物跡 (22図・24図)

〔位置と確認〕 VO-Q-105・106に位置する。Ⅲ層で円形の落ち込みを確認した。発掘調査時には個々にビット番号を付し、精査を行った。

〔重複〕 X0Y0(第6215号ビット)が第43号掘立柱建物跡X1Y1(第6212号ビット)と、X0Y2(6222)ビットが第43号掘立柱建物跡X1Y2と重複するが、新旧関係は不明である。

〔規模〕 桁行2間(総長7.6m)、梁行1間(総長4.9m)である。主軸方位は $N-80^{\circ}-W$ である。

〔平面形式〕 梁行X列間とそれぞれの桁行Y列の柱間寸法がほぼ等しい長方形を呈する。

〔柱穴・柱痕〕 掘り方は確認面で径104～136cm、深さは65～105cmである。柱痕跡はすべての柱穴に認められた。いずれも円形ないしは不整形を呈する。

〔柱穴寸法〕 桁方向で3.70～3.80m、梁方向では2.90～3.25mである。

〔出土遺物〕 なし。

〔時期〕 確認状況から、縄文時代中期と考えられる。

第45号掘立柱建物跡 (23図・24図・47図)

〔位置と確認〕 VM-P-107-109に位置する。Ⅲ層で円形の落ち込みを確認した。発掘調査時には個々にビット番号を付し、精査を行った。

〔重複〕 XOY0 (第6235ビット) が第48号掘立柱建物跡X1Y1と重複するが、新旧関係は不明である。XOY2 (第6243号ビット) は第6224号ビットと重複するが、新旧関係は不明である。X1Y0 (第6213号ビット) は第46号掘立柱建物跡X1Y2と重複するが、新旧関係は不明である。

〔規模〕 桁行2間 (総長11m)、梁行1間 (総長5.8m) である。主軸方位はN-89°-Wである。

〔平面形式〕 梁行X列間とそれぞれの桁行Y列の柱間寸法がほぼ等しい長方形を呈する。

〔柱穴・柱痕〕 掘り方は確認面で径130-170cm、深さは95-145cmである。柱痕跡はX1Y1、X1Y2に認められた。いずれも円形ないしは不整形円形を呈する。

〔柱穴寸法〕 桁方向で4.50-4.96m、梁方向では4.42-4.46mである。

〔出土遺物〕 第Ⅲ群を中心とする土器が出土した。

〔時期〕 堆積土出土遺物から、縄文時代中期と考えられる。

第46号掘立柱建物跡 (25図・26図)

〔位置と確認〕 VP-R-107-109に位置する。Ⅲ層で円形の落ち込みを確認した。発掘調査時には個々にビット番号を付し、精査を行った。

〔重複〕 XOY0 (第9941号ビット) が第9940号ビット・第945号ビットと重複するが、新旧関係は不明である。XOY1 (第6231号ビット) は第48号掘立柱建物跡X1Y0と、XOY2 (第6235号ビット) は第48号掘立柱建物跡X1Y1と重複するが、新旧関係は不明である。X1Y2 (第6211号ビット) は第45号掘立柱建物跡X1Y0と重複するが、新旧関係は不明である。

〔規模〕 桁行2間 (総長9m)、梁行1間 (総長5.4m) である。主軸方位は東西である。

〔平面形式〕 長方形を呈する。桁行Y列の柱間寸法は東側が短い。

〔柱穴・柱痕〕 掘り方は確認面で径110-194cm、深さは65-125cmである。柱痕跡はXOY1・X1Y0-Y2に認められた。いずれも円形ないしは不整形円形を呈する。

〔柱穴寸法〕 桁方向で3.40-4.90m、梁方向では3.45-3.58mである。

〔出土遺物〕 なし。

〔時期〕 確認状況から、縄文時代中期と考えられる。

第47号掘立柱建物跡 (27図)

〔位置と確認〕 VP-R-109-110に位置する。Ⅲ層で円形の落ち込みを確認した。発掘調査時には個々にビット番号を付し、精査を行った。

〔重複〕 XOY0 (第8600号ビット) が第8599号ビットと重複するが、新旧関係は不明である。XOY1 (第6225号ビット) が他の掘立柱建物跡を構成する可能性のある柱穴と重複しているが、新旧関係は不明である。XOY2 (第6218号ビット) が第6214号ビット・第13500号ビットと重複しているが、新旧関係は不明である。X1Y1 (第6237号ビット) が第13491号ビットと重複しているが、新旧関係は不明である。

- 〔規模〕 桁行2間（総長8.1m）、梁行1間（総長2.8m）である。主軸方位は $N-82^{\circ}-W$ である。
- 〔平面形式〕 梁行X列間がそれぞれの桁行Y列の柱間寸法より短い長方形を呈する。
- 〔柱穴・柱痕〕 掘り方は確認面で径66～130cm、深さは70～120cmである。柱痕跡はX1Y2に認められた。いずれも円形を呈する。
- 〔柱穴寸法〕 桁方向で3.58～3.65m、梁方向では2.00～2.15mである。
- 〔出土遺物〕 なし。
- 〔時期〕 確認状況から、縄文時代中期と考えられる。

第48号掘立柱建物跡（28図）

- 〔位置と確認〕 VO-Q-108～110に位置する。Ⅲ層で円形の落ち込みを確認した。発掘調査時には個々にビット番号・土坑番号を付し、精査を行った。
- 〔重複〕 X0Y0（第6207号ビット）が第6209号ビットと重複するが、新旧関係は不明である。X0Y1（第6208号ビット）が第49号掘立柱建物跡X0Y2（第13489号ビット）・第6214号ビットと重複するが、新旧関係は不明である。X0Y2（第480号土坑）が第9418号ビットと重複するが、新旧関係は不明である。X1Y1（第6237号ビット）が第13491号ビットと重複するが、新旧関係は不明である。
- 〔規模〕 桁行2間（総長8.8m）、梁行1間（総長4.5m）である。主軸方位は $N-88^{\circ}-W$ である。
- 〔平面形式〕 梁行X列間とそれぞれの桁行Y列の柱間寸法がほぼ等しい長方形を呈する。
- 〔柱穴・柱痕〕 掘り方は確認面で径94～116cm、深さは65～125cmである。柱痕跡はX0Y0に認められた。円形を呈する。
- 〔柱穴寸法〕 桁方向で3.46～4.00m、梁方向では3.20～3.35mである。
- 〔出土遺物〕 なし。
- 〔時期〕 確認状況から、縄文時代中期と考えられる。

第49号掘立柱建物跡（29図）

- 〔位置と確認〕 VP-R-108～110に位置する。Ⅲ層で円形の落ち込みを確認した。発掘調査時には個々にビット番号・土坑番号を付し、精査を行った。
- 〔重複〕 X0Y2（第13489号ビット）が第48号掘立柱建物跡X0Y1（第6208号ビット）と重複するが、新旧関係は不明である。X1Y0（第6219号ビット）が第622号ビットと重複するが、新旧関係は不明である。X1Y2（6232号ビット）が第6236号ビットと重複するが、新旧関係は不明である。
- 〔規模〕 桁行2間（総長6.3m）、梁行1間（総長3.9m）である。主軸方位は $N-80^{\circ}-E$ である。
- 〔平面形式〕 梁行X列間がそれぞれの桁行Y列の柱間寸法よりやや長い長方形を呈する。
- 〔柱穴・柱痕〕 掘り方は確認面で径56～98cm、深さは35～90cmである。柱痕跡はX0Y0・X1Y0に認められた。いずれも円形ないしは不整形円形を呈する。
- 〔柱穴寸法〕 桁方向で2.70～3.22m、梁方向では3.38～3.44mである。
- 〔出土遺物〕 なし。
- 〔時期〕 確認状況から、縄文時代中期と考えられる。

第50号掘立柱建物跡 (30図)

〔位置と確認〕 VR～T-108・109に位置する。Ⅲ層で円形の落ち込みを確認した。発掘調査時には個々にビット番号を付し、精査を行った。

〔重複〕 XOY0 (第9948号ビット) が第9947号ビットと重複するが、新旧関係は不明である。XOY1 (第10075号ビット) が第10076号ビット・第10074号ビットと重複するが、新旧関係は不明である。XOY2 (6230号ビット) が第8597号ビットと重複するが、新旧関係は不明である。X1Y0 (第9985号ビット) が第51号掘立柱建物跡X1Y1 (第9984号ビット)、第52号掘立柱建物跡X1Y2 (第9982号ビット) と重複するが、新旧関係は不明である。X1Y2 (第9938号ビット) が第9940号ビットと重複するが、新旧関係は不明である。

〔規模〕 桁行2間 (総長7m)、梁行1間 (総長4.2m) である。主軸方位はN-88°-Eである。

〔平面形式〕 梁行X列間がそれぞれの桁行Y列の柱間寸法よりやや長い長方形を呈する。

〔柱穴・柱痕〕 掘り方は確認面で径82～166cm、深さは80～120cmである。柱痕跡はXOY0で確認された。円形を呈する。

〔柱穴寸法〕 桁行方向で2.85～2.96m、梁方向では3.00～3.62mである。

〔出土遺物〕 なし。

〔時期〕 確認状況から、縄文時代中期と考えられる。

第51号掘立柱建物跡 (31図・47図・48図)

〔位置と確認〕 VS～VIA-108・109に位置する。Ⅲ層で円形の落ち込みを確認した。発掘調査時には個々にビット番号を付し、精査を行った。

〔重複〕 XOY0 (第10081号ビット) が第10083・10084号ビットと重複するが、新旧関係は不明である。X1Y0 (第9671号ビット) が第9672号ビットと重複するが、新旧関係は不明である。X1Y1 (第9984号ビット) が第9985号ビットと重複するが、新旧関係は不明である。X1Y2 (第9998号ビット) が第50号掘立柱建物跡X1Y1 (第9996号ビット) と重複するが、新旧関係は不明である。

〔規模〕 桁行2間 (総長9.6m)、梁行1間 (総長4.3m) である。主軸方位はN-84°-Wである。

〔平面形式〕 梁行X列間がそれぞれの桁行Y列の柱間寸法よりやや短い長方形を呈する。

〔柱穴・柱痕〕 掘り方は確認面で径100～140cm、深さは80～125cmである。柱痕跡はXOY0・XOY1・X1Y0に認められた。いずれも円形ないしは不整形円形を呈する。

〔柱穴寸法〕 桁行方向で4.02～4.30m、梁方向では3.10～3.20mである。

〔出土遺物〕 土偶が出土した。第Ⅲ群を中心とする土器が出土した。

〔時期〕 堆積土出土土器から、縄文時代中期と考えられる。

第52号掘立柱建物跡 (32図・33図・48図・49図)

〔位置と確認〕 VT～VIB-108～110に位置する。Ⅲ層で円形の落ち込みを確認した。発掘調査時には個々にビット番号を付し、精査を行った。

〔重複〕 XOY0 (第9930号ビット) は柱穴が2基重複しているようであるが、新旧関係は不明である。XOY1 (第10091号ビット) は第10092号ビットと重複しているが、新旧関係は不明である。

XOY2（第9956号ピット）は第9946号ピット・第4503号ピットと重複するが、新旧関係は不明である。X1Y0は柱穴がもう1基、重複している可能性がある。X1Y1（第9973号ピット）は第9974号ピットと重複し、新旧関係は不明である。X1Y2（第9982号ピット）は第9981号ピットと重複するが、新旧関係は不明である。

〔規模〕 桁行2間（総長10.2m）、梁行1間（総長6.1m）である。主軸方位はN-86°-Wである。

〔平面形式〕 梁行X列間とそれぞれの桁行Y列の柱間寸法がほぼ等しい長方形を呈する。

〔柱穴・柱痕〕 掘り方は確認面で径152～200cm、深さは90～125cmである。柱痕跡はXOY0・XOY2に認められた。いずれも円形ないしは不整形を呈する。

〔柱穴寸法〕 桁方向で4.12～4.80m、梁方向では4.74～4.76mである。

〔出土遺物〕 石匙等の石器が出土した。

〔時期〕 確認状況から、縄文時代中期と考えられる。

第53号掘立柱建物跡（34図・35図）

〔位置と確認〕 VI B-D-107～109に位置する。Ⅲ層で円形の落ち込みを確認した。発掘調査時には個々にピット番号を付し、精査を行った。

〔重複〕 XOY0（第9918号ピット）が第9919・9920号ピットと重複するが、新旧関係は不明である。XOY1（第10302号ピット）が第10303号ピットと重複するが、新旧関係は不明である。X1Y0（第9922号ピット）が第9923号ピットと重複するが、新旧関係は不明である。X1Y1（第9962号ピット）が第55号掘立柱建物跡X1Y2（第10310号ピット）・第9961号ピットと重複するが、新旧関係は不明である。X1Y2（第9924号ピット）は2基の柱穴が重複しているが、新旧関係は不明である。

〔規模〕 桁行2間（総長8m）、梁行1間（総長6.1m）である。主軸方位はN-86°-Wである。

〔平面形式〕 梁行X列間がそれぞれの桁行Y列の柱間寸法よりやや長い長方形を呈する。

〔柱穴・柱痕〕 掘り方は確認面で径114～160cm、深さは95～105cmである。柱痕跡はXOY0・XOY1・XOY2・X1Y0に認められた。いずれも円形ないしは不整形を呈する。

〔柱穴寸法〕 桁方向で2.80～3.81m、梁方向では4.65～4.92mである。

〔出土遺物〕 ミニチュア土器が出土した。

〔時期〕 確認状況から、縄文時代中期と考えられる。

第54号掘立柱建物跡（36図・37図）

〔位置と確認〕 VI B-E-108～110に位置する。Ⅲ層で円形の落ち込みを確認した。発掘調査時には個々にピット番号を付し、精査を行った。

〔重複〕 XOY1（第10099号ピット）が10100号ピットと重複するが、新旧関係は不明である。X1Y0（第9643号ピット）は2基の柱穴が重複しているが、新旧関係は不明である。X1Y1（第10297号ピット）は第10298号ピットと重複しているが、新旧関係は不明である。

〔規模〕 桁行2間（総長10.9m）、梁行1間（総長5.2m）である。主軸方位はN-79°-Wである。

〔平面形式〕 長方形を呈する。桁行Y列の柱間寸法は東側が短い。

〔柱穴・柱痕〕 掘り方は確認面で径86～196cm、深さは50～120cmである。柱痕跡はXOY1・XOY2・

X1Y0に認められた。いずれも円形ないしは不整形を呈する。また、X0Y0・X1Y2は底面が一部窪んでいた。

〔柱穴寸法〕 桁方向で4.15～6.06m、梁方向では4.00～4.28mである。

〔出土遺物〕 なし。

〔時期〕 確認状況から、縄文時代中期と考えられる。

第55号掘立柱建物跡（38図）

〔位置と確認〕 VIC・D-107～109に位置する。Ⅲ層で円形の落ち込みを確認した。発掘調査時には個々にビット番号を付し、精査を行った。

〔重複〕 X0Y0（第9643号ビット）は2基の柱穴が重複しているが、新旧関係は不明である。X0Y1（第9916号ビット）は第9915・9917・10306号ビットと重複しているが、新旧関係は不明である。X0Y2（第9691号ビット）は第54号掘立柱建物跡X1Y1（第10291号ビット）と重複しているが、新旧関係は不明である。

〔規模〕 桁行2間（総長7.2m）、梁行1間（総長4.5m）である。主軸方位はN-75°-Wである。

〔平面形式〕 梁行X列間とそれぞれの桁行Y列の柱間寸法がほぼ等しい長方形を呈する。

〔柱穴・柱痕〕 掘り方は確認面で径136～146cm、深さは110～160cmである。柱痕跡はX0Y0・X1Y0に認められた。いずれも円形ないしは不整形を呈する。

〔柱穴寸法〕 桁方向で2.96～3.10m、梁方向では3.00～3.12mである。

〔出土遺物〕 なし。

〔時期〕 確認状況から、縄文時代中期と考えられる。

第56号掘立柱建物跡（39図・47図）

〔位置と確認〕 VIE・F-106・107に位置する。Ⅲ層で円形の落ち込みを確認した。発掘調査時には個々にビット番号を付し、精査を行った。

〔重複〕 X0Y0（第8737号ビット）が第8700号ビットと重複するが、新旧関係は不明である。X0Y2（第9652号ビット）が第9653号ビットと重複するが、新旧関係は不明である。X0Y0（第8736号ビット）が第13540号ビットと重複するが、新旧関係は不明である。X1Y1（第10286号ビット）が第10287号ビットと重複するが、新旧関係は不明である。

〔規模〕 桁行2間（総長7.3m）、梁行1間（総長4.8m）である。主軸方位はN-89°-Wである。

〔平面形式〕 梁行X列間がそれぞれの桁行Y列の柱間寸法より長い長方形を呈する。

〔柱穴・柱痕〕 掘り方は確認面で径114～136cm、深さは90～150cmである。柱痕跡はX0Y0、X1Y0・X1Y1に認められた。いずれも円形ないしは不整形を呈する。

〔柱穴寸法〕 桁方向で2.84～3.48m、梁方向では3.94～4.02mである。

〔出土遺物〕 蔽磨器類等の石器が出土した。

〔時期〕 確認状況から、縄文時代中期と考えられる。

第58号掘立柱建物跡 (51図・58図)

〔位置と確認〕 VIH-J-106・107に位置する。Ⅲ層で円形の落ち込みを確認した。発掘調査時には個々にビット番号・土坑番号を付し、精査を行った。

〔重複〕 XOY1 (第6105号ビット) は第59号掘立柱建物跡XOY2と重複しているが、新旧関係は不明である。X1Y1 (第6090号ビット) は第3050号ビットと重複しているが、新旧関係は不明である。XOY2 (第6180号ビット) ・X1Y2 (第531号土坑) はそれぞれ第57号掘立柱建物跡XOY2・X1Y2と重複するが、新旧関係は不明である。

〔規模〕 桁行2間 (総長5.9m)、梁行1間 (総長5m) である。主軸方位はN-85° -Wである。

〔平面形式〕 梁行X列間がそれぞれの桁行Y列の柱間寸法より長い長方形を呈する。

〔柱穴・柱痕〕 掘り方は確認面で径84~184cm、深さは70~135cmである。柱痕跡はXOY1・XOY2・X1Y0・X1Y1に認められた。いずれも円形ないしは不整形を呈する。

〔柱穴寸法〕 桁方向で2.20~2.82m、梁方向では4.36~4.42mである。

〔出土遺物〕 第Ⅲを中心とする土器が出土した。

〔時期〕 堆積土出土土器から、縄文時代中期と考えられる。

第59号掘立柱建物跡 (41図・51図・52図)

〔位置と確認〕 VI1-K-106~108に位置する。Ⅲ層で円形の落ち込みを確認した。発掘調査時には個々にビット番号を付し、精査を行った。

〔重複〕 XOY0 (第6185号ビット) が第9003号ビットと重複するが、新旧関係は不明である。XOY1 (第6171号ビット) は第8985号ビットと重複するが、新旧関係は不明である。またXOY1は2基の柱穴が重複しているが、新旧関係は不明である。XOY2 (第6105号ビット) は第58号掘立柱建物跡 (XOY1) と重複するが、新旧関係は不明である。X1Y1 (第6102号ビット) は第5569号ビットと重複するが、新旧関係は不明である。

〔規模〕 桁行2間 (総長5.5m)、梁行1間 (総長4.5m) である。主軸方位はN-75° -Eである。

〔平面形式〕 梁行X列間がそれぞれの桁行Y列の柱間寸法より長い長方形を呈する。

〔柱穴・柱痕〕 掘り方は確認面で径82~148cm、深さは105~150cmである。X1Y2で不整形の柱痕跡を確認した。またXOY0・XOY1・XOY2・X1Y1では木柱の一部が残存していた。

〔柱穴寸法〕 桁方向で2.02~2.72m、梁方向では3.55~3.60mである。

〔出土遺物〕 第Ⅲ群を中心とする土器が出土した。石器は石鏃等が出土した。

〔時期〕 堆積土出土遺物から、縄文時代中期と考えられる。

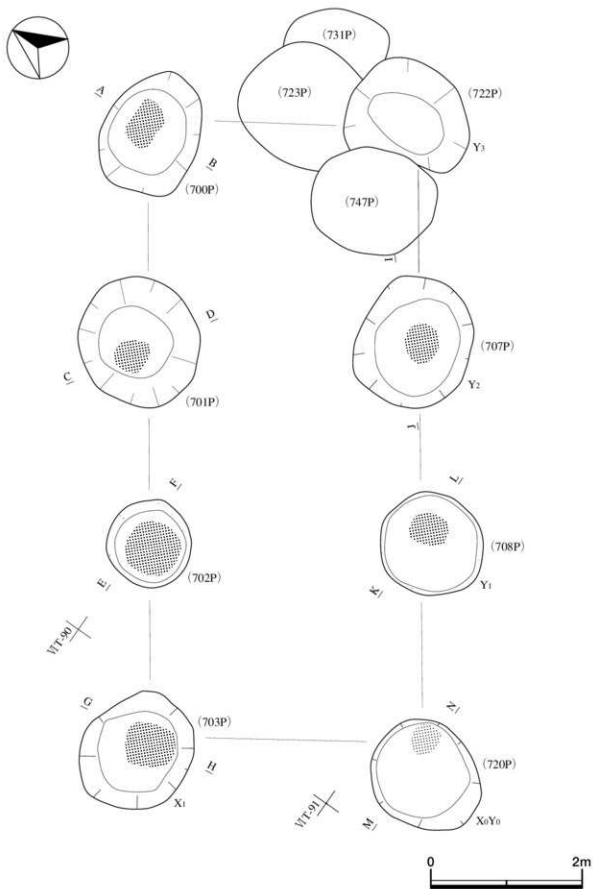
掘立柱建物跡柱穴一覧表

掘立番号	位置	調査時の遺構名	グリッド	開口部		底部		深さ cm	出土土器
				長径cm	短径cm	長径cm	短径cm		
第11号掘立柱建物跡	X0Y0	720号ビット	VIS - 91	150	135	120	120		Ⅲ群6類土器片12点
	X0Y1	708号ビット	VIS - 90	14	135	130	125	110	Ⅱ群5類2、Ⅱ群6類、Ⅲ群3・6・11類土器片38点
	X0Y2	707号ビット	ⅤR - 90	175	150	150	110	100	Ⅱ群5類1、Ⅱ群6類、Ⅲ群4～6類土器片31点
	X0Y3	722号ビット	ⅤQ・ⅤR - 89	165	(120)	105	70		
	X1Y0	703号ビット	ⅤT - 90	165	140	115	105	150	Ⅲ群3・4・6・9・11類土器片186点
	X1Y1	702号ビット	VIS - 89・90	115	110	90	90	130	Ⅲ群4・6類土器片2点
	X1Y2	701号ビット	VIS - 89	170	160	95	90	125	Ⅲ群4・6類土器片7点
	X1Y3	700号ビット	ⅤR - 89	170	130	110	95	105	Ⅲ群3・6類土器片13点
第12号掘立柱建物跡	X0Y0	710号ビット	VIS - 91	195	170	80	105		Ⅱ群5類1、Ⅱ群6類、Ⅲ群6・9・11類土器片23点
	X0Y1	712号ビット	ⅤR - 90・91	215	160	125	125		Ⅲ群3類を含む土器小片145点
	X0Y2	733号ビット	ⅤQ - 90	120	(100)	(75)	75	55	
	X1Y0	704号ビット	VIS・ⅤT - 90	190	155	100	70		Ⅲ群11類土器片78点
	X1Y1	705号ビット	VIS - 90	(130)	(150)	100	100	120	Ⅲ群4・6・10・11類土器片31点
	X1Y2	723号ビット	ⅤR - 89	(145)	160	(120)	90		Ⅱ群5類1、Ⅱ群6類、Ⅲ群11類土器片51点
第13号掘立柱建物跡	X0Y0	742号ビット	ⅤR - 91・92	190	(110)	130	(90)		
	X0Y1	740号ビット	ⅤQ・ⅤR - 91	(140)	(35)	(130)	(25)	112	
	X0Y2	736号ビット	ⅤQ - 91	185	120	125	90	92	Ⅲ群4・6・10類土器片3点
	X1Y0	709号ビット	VIS - 91	195	175	90	100		Ⅱ群6類、Ⅲ群4・6類土器片23点
	X1Y1	746号ビット	ⅤR - 90	160	95	100	90	74	
	X1Y2	748号ビット	ⅤQ・ⅤR - 90	150	130	95	105		Ⅱ群6類、Ⅲ群6・11類土器小片24点
第14号掘立柱建物跡	X0Y0	718号ビット	ⅤR - 91・92	195	175	110	110	90	Ⅱ群6類、Ⅲ群6類土器片36点
	X0Y1	717号ビット	ⅤQ - 91	130	125	105	110	125	Ⅲ群6類土器片16点
	X0Y2	726号ビット	ⅤP・ⅤQ - 90・91	125	140	115	115	100	
	X1Y0	711号ビット	ⅤR - 91	150	(95)	120	(85)	95	
	X1Y1	721号ビット	ⅤR - 90	135	120	105	105	85	Ⅱ群6類、Ⅲ群6類土器破片19点
	X1Y2	732号ビット	ⅤQ - 90	(90)	105	(75)	90	50	
第15号掘立柱建物跡	X0Y0	713号ビット	ⅤR・Q - 93	130	105	100	90	115	
	X0Y1	714号ビット	ⅤQ - 92・93	115	145	105	100	100	Ⅲ群4・9類を含む土器小片58点
	X0Y2	728号ビット	ⅤP - 92	130	150	150	90	161	Ⅱ群6類、Ⅲ群3・6類土器小片23点
	X1Y0	725号ビット	ⅤR - 92	160	140	75	70	115	Ⅱ群6類、Ⅲ群10・11類土器小片21点
	X1Y1	715号ビット	ⅤQ - 92	110	95	75	75	104	縄文土器細片22点
	X1Y2	716号ビット	ⅤP・Q - 91	180	165	90	70	120	縄文土器細片4点

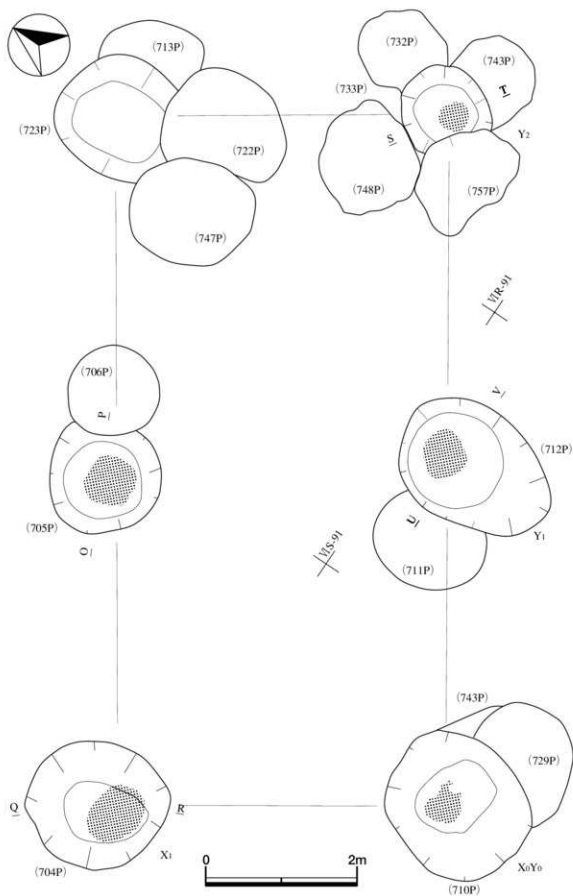
掘立番号	位置	調査時の遺構名	グリッド	開口部		底部		深さ cm	出土土器
				長径cm	短径cm	長径cm	短径cm		
第32号掘立柱建物跡	X0Y0	6,180号ピット	VIH-I - 107	136	90	124	76	135	Ⅲ群3・6・9・10・11類土器破片29点
	X0Y1	8,693号ピット	VIH - 107	128	118	120	106	120	Ⅱ群5類1、Ⅲ群1・4・8・9・10・11類土器片213点
	X0Y2	8,741号ピット	VI G - 107	104	90	70	64	145	
	X1Y0	531号土抗	VIH-I - 106	184	116	132	90	130	
	X1Y1	8,697号ピット	VIH - 106	102	100	96	78	130	
	X1Y2	6,040号ピット	VI G - 106	122	114	96	108		
第41号掘立柱建物跡	X0Y0	8号掘立	VM - 106	62	50	32	36	52	
	X0Y1	*	VL - 106	55	42	40	36	46	
	X0Y2	*	VL - 106	(45)	40	40	34	56	
	X1Y0	*	VM - 105・106	(48)	60	26	35	68	
	X1Y1	*	VL - 105・107	58	45	47	32	35	
	X1Y2	*	VL - 105・106	46	40	42	45	32	
第42号掘立柱建物跡	X0Y0	13,519号ピット	VN - 106	54	53	40	26	99	
	X0Y1	13,516号ピット	VN - 106	60	55	32	30	61	
	X0Y2		VM - 106	105	95	89	89	77	
	X1Y0	13,518号ピット	VN - 106	60	50	34	30	70	
	X1Y1	13,515号ピット	VM・N - 106	66	55	50	39	45	
	X1Y2		VM - 105・106	(80)	70	30	40	47	
第43号掘立柱建物跡	X0Y0	6,210号ピット	VR - 106	104	80	80	66	90	
	X0Y1	6,205号ピット	VP - 106	106	84	64	76	75	
	X0Y2	6,223号ピット	VP - 106	90	80	80	64	90	
	X1Y0	6,242号ピット	VR - 105・106	90	88	68	70	60	
	X1Y1	6,212号ピット	VP - 106	92	76	70	52	75	
	X1Y2	6,222号ピット	VO・P - 106	134	110	80	68	85	
第44号掘立柱建物跡	X0Y0	6,215号ピット	VP - 106	104	90	72	60	65	
	X0Y1	6,203号ピット	VP - 106	110	98	96	82	70	
	X0Y2	6,222号ピット	VO・P - 106	136	108	116	92	85	
	X1Y0	8,603号ピット	VQ - 105	124	110	108	92	50	
	X1Y1	5,642号ピット	VP - 105	118	106	112	102	105	
	X1Y2	5,641号ピット	VO - 105	130	114	120	112	75	
第45号掘立柱建物跡	X0Y0	6,235号ピット	VP - 109	(120)	(110)	110	(84)	125	
	X0Y1	6,248号ピット	VO - 109	130	120	92	102	145	
	X0Y2	6,243号ピット	VM・N - 108・109	170	162	134	136	150	
	X1Y0	6,213号ピット	VP - 107・108	(146)	126	(120)	(120)	95	
	X1Y1	6,246号ピット	VO - 107・108	140	130	128	108	95	Ⅱ群4類か5類1、Ⅲ群6類等の土器小破片6点
	X1Y2	6,240号ピット	VM・VN - 107・108	142	136	122	120	110	

掘立番号	位置	調査時の遺構名	グリッド	開口部		底部		深さ cm	出土土器	
				長径cm	短径cm	長径cm	短径cm			
第46号掘立柱建物跡	X0Y0	9,941号ビット	VR	-108・109	110	90	80	72	75	
	X0Y1	6,231号ビット	VQ	-108・109	194	132	176	122	65	
	X0Y2	6,235号ビット	VP	-108・109	150		120		125	
	X1Y0	6,221号ビット	VR	-107・108	128	98	74	84	100	
	X1Y1	6,204号ビット	VQ	-107・108	166	144	112	74	95	
	X1Y2	6,211号ビット	VP	-107・108	(160)	148	(120)	(120)	95	
第47号掘立柱建物跡	X0Y0	8,600号ビット	VR	-109・110	(60)	64	40	34	70	
	X0Y1	6,225号ビット	VQ	-110	130	110	106	100	110	
	X0Y2	6,218号ビット	VP	-109	(108)	118	86	102	120	
	X1Y0	8,596号ビット	VR	-109	88	68	62	50	70	
	X1Y1	6,237号ビット	VQ	-109	66	64	58	48	100	
	X1Y2	6,247号ビット	VP	-109	84	70	68	58	90	
第48号掘立柱建物跡	X0Y0	6,207号ビット	VQ	-109	150	(98)	128	(86)	95	
	X0Y1	6,208号ビット	VP	-109	(138)	106	106	80	100	
	X0Y2	480号土坑	VO	-109・110	116	100	98	90	75	
	X1Y0	6,231号ビット	VQ	-108・109	194	134	176	120	65	
	X1Y1	6,235号ビット	VP	-108・109	260	(144)	172	(124)	125	
	X1Y2	9,420号ビット	VO	-108・109	116	106	88	90	95	
第49号掘立柱建物跡	X0Y0	6,217号ビット	VR	-109・110	56	50	40	40	55	
	X0Y1	13,490号ビット	VQ	-109	80	72	70	60	60	
	X0Y2	13,489号ビット	VP・VQ	-109	98	64	48	32	90	
	X1Y0	6,219号ビット	VR	-109	84	68	56	50	55	
	X1Y1	13,497号ビット	VQ	-108・109	62	56	44	44	60	
	X1Y2	6,232号ビット	VQ	-108・109	(114)	90	(106)	76	35	
第50号掘立柱建物跡	X0Y0	9,947号ビット	VT	-109	166	112	128	92	105	
	X0Y1	10,075号ビット	VS	-109	120	(80)	76	64	100	
	X0Y2	6,230号ビット	VR	-109	114	98	102	74	90	
	X1Y0	9,985号ビット	VT	-108	140		110		120	
	X1Y1	9,996号ビット	VS	-108	(82)	74	58	56	105	
	X1Y2	9,938号ビット	VR	-108	82	82	78	64	80	
第51号掘立柱建物跡	X0Y0	10,081号ビット	VIA	-109	126	88	64	42	120	Ⅲ群4類を主とした土器片16点
	X0Y1	9,949号ビット	VT	-109	120	104	76	78	115	
	X0Y2		VS	-109	114	116	94	94	105	
	X1Y0	9,671号ビット	VIB	-108	120	(84)	64	56	80	Ⅱ群2・6類、Ⅲ群1・6・10・11類土器破片25点
	X1Y1	9,988号ビット	VT	-108	140	120	100	104	105	
	X1Y2	9,998号ビット	VS	-108	100	94	64	36	125	
第52号掘立柱建物跡	X0Y0	9,930号ビット	VIB	-109	200	154	134	114	120	
	X0Y1	10,091号ビット	VIA	-109	152	142	124	124	100	
	X0Y2	9,956号ビット	VT	-109	184	154	160	124	95	
	X1Y0	9,911号ビット	VIB	-108	180	140	120	94	125	
	X1Y1	9,973号ビット	VIA	-108	(86)	134	(66)	124	105	
	X1Y2	9,981号ビット	VT	-108	(190)	160	180	140	90	

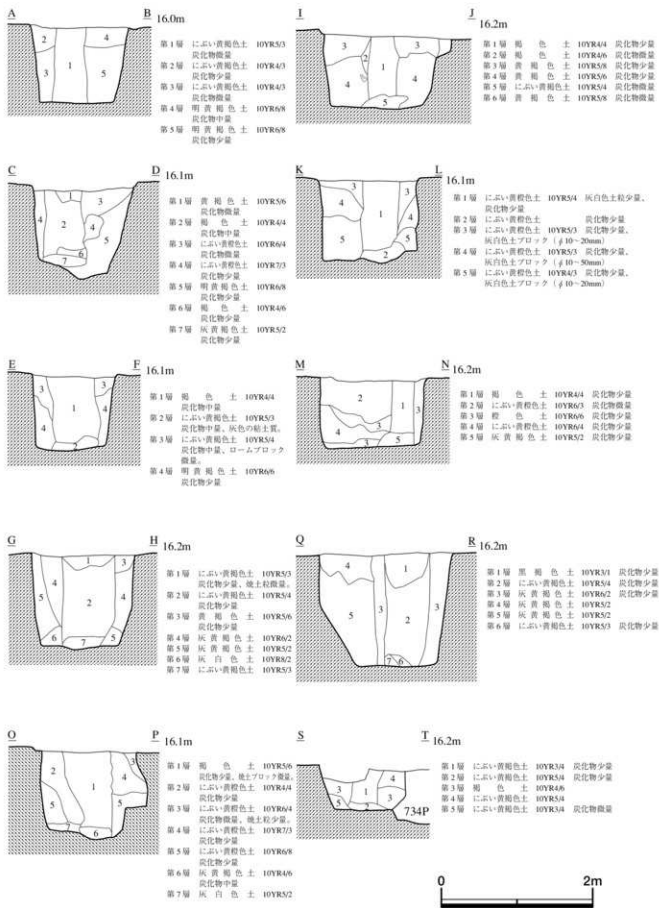
掘立番号	位置	調査時の遺構名	グリッド	開口部		底部		深さ cm	出土土器
				長径cm	短径cm	長径cm	短径cm		
第53号掘立柱建物跡	XOY0	9,918号ピット	VID - 109	160 (110)	134	84	95		
	XOY1	10,302号ピット	VIC - 109	(132)	106 (120)	94			
	XOY2	9,953号ピット	VIB - 109	146	116	90	105		
	X1Y0	9,922号ピット	VID - 107-108	174 (94)	110 (72)	100			
	X1Y1	9,962号ピット	VIC - 107-108	114	94	82	76	100	
	X1Y2	9,924号ピット	VIB - 107-108	152	152	96	86	105	
第54号掘立柱建物跡	XOY0	9,658号ピット	VID・VIE - 109	196	110	178	94		
	XOY1	10,099号ピット	VIC - 109-110	(100)	98 (80)	86	100		
	XOY2	9,677号ピット	VIB - 110	114	96	94	76	80	
	X1Y0	9,643号ピット	VID - 108	146	126	98	80	120	
	X1Y1	10,297号ピット	VIC - 108-109	(74)	(48)	(44)	(26)		
	X1Y2	9,650号ピット	VIB - 109	86	60	78	52	50	
第55号掘立柱建物跡	XOY0	9,643号ピット	VID - 108	146	124	96	78	120	
	XOY1	9,916号ピット	VIC・VID - 108	(116)	(100)	(80)	(56)	160	
	XOY2	9,691号ピット	VIC - 108-109	(136)	(102)	(110)	(84)	110	
	X1Y0	9,692号ピット	VID - 107-108	140	106	138	76	125	
	X1Y1	9,659号ピット	VIC - 107-108	136	112	116	92	115	
	X1Y2	10,310号ピット	VIC - 108	(150)	(140)	(136)	(116)	120	
第56号掘立柱建物跡	XOY0	8,737号ピット	VIF - 107	136 (120)	80	74			
	XOY1	6,181号ピット	VIE・VIF - 107	114	108	66	54	140	
	XOY2	9,652号ピット	VIE - 107	(88)	(56)	44	36	90	
	X1Y0	8,736号ピット	VIF - 106	114	100	74	72	135	
	X1Y1	10,286号ピット	VIE・VIF - 106	104	98	46	40	150	
	X1Y2	9,684号ピット	VID・VIE - 106	98	64	52	40	100	
第58号掘立柱建物跡	XOY0	8,984号ピット	VIJ - 107	92	76	72	58	70	
	XOY1	6,105号ピット	VII - 107	140	124	108	92	130	
	XOY2	6,180号ピット	VIIH-I - 107	136	90	124	76	135	
	X1Y0	6,101号ピット	VIJ - 106	84	68	70	54	85	
	X1Y1	6,090号ピット	VII - 106	170	122	128	92		
	X1Y2	531号土抗	VIIH-I - 106	184	116	132	90	130	
第59号掘立柱建物跡	XOY0	6,185号ピット	VIJ - 107-108	82	80	64	64	105	
	XOY1	6,171号ピット	VIJ - 107-108	148	96	126	66	115	
	XOY2	6,105号ピット	VII - 107	140	124	108	92	130	
	X1Y0	2,504号ピット	VIK - 107	98	96	84	90	135	
	X1Y1	6,102号ピット	VIJ - 106-107	92	86	64	64	150	
	X1Y2	6,100号ピット	VIJ - 106	92	76	76	46	150	



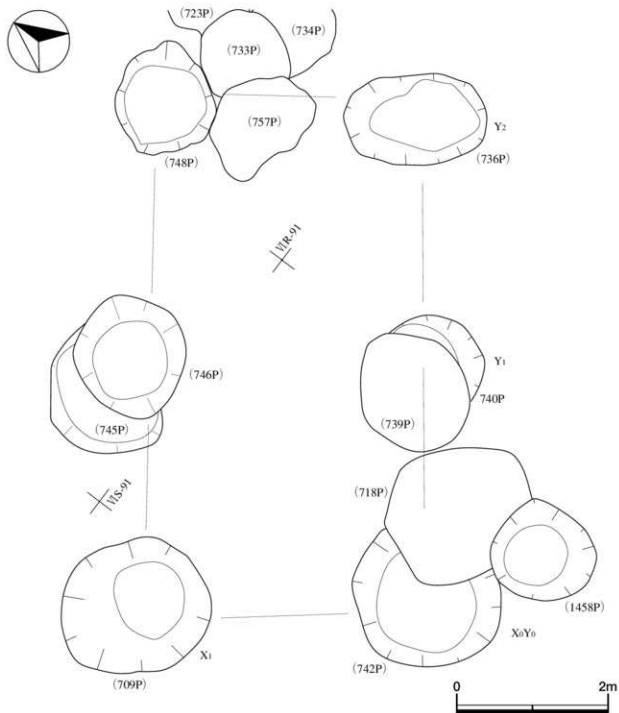
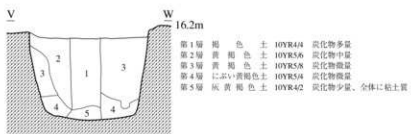
11图 第11号掘立柱建物跡(1)



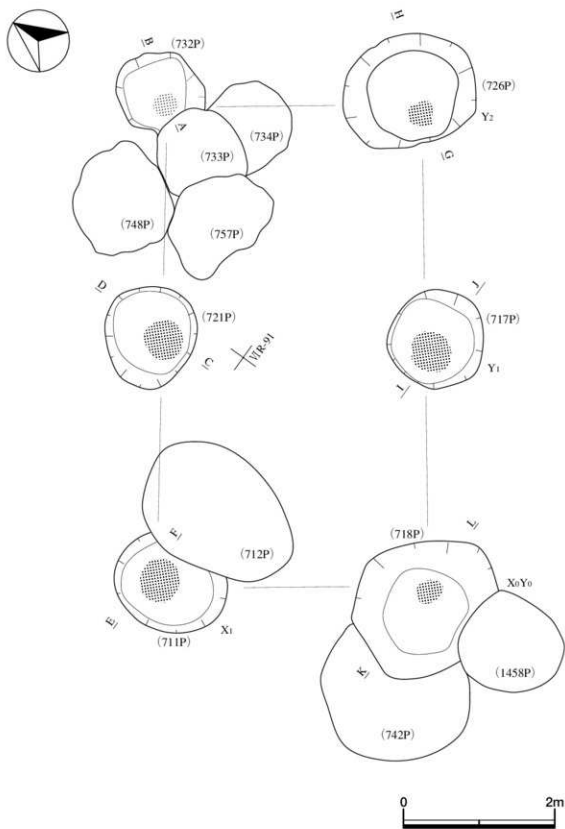
12图 第12号掘立柱建物跡(1)



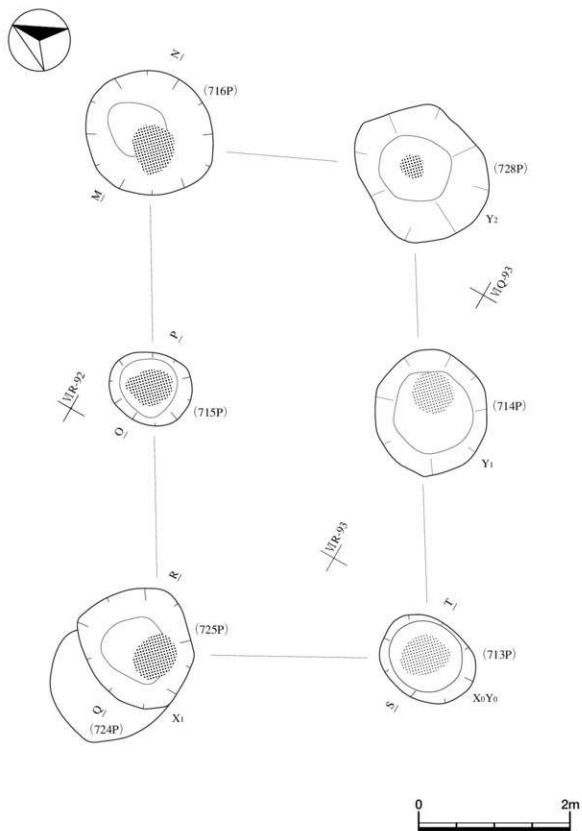
13図 第11・12号掘立柱建物跡 (2)



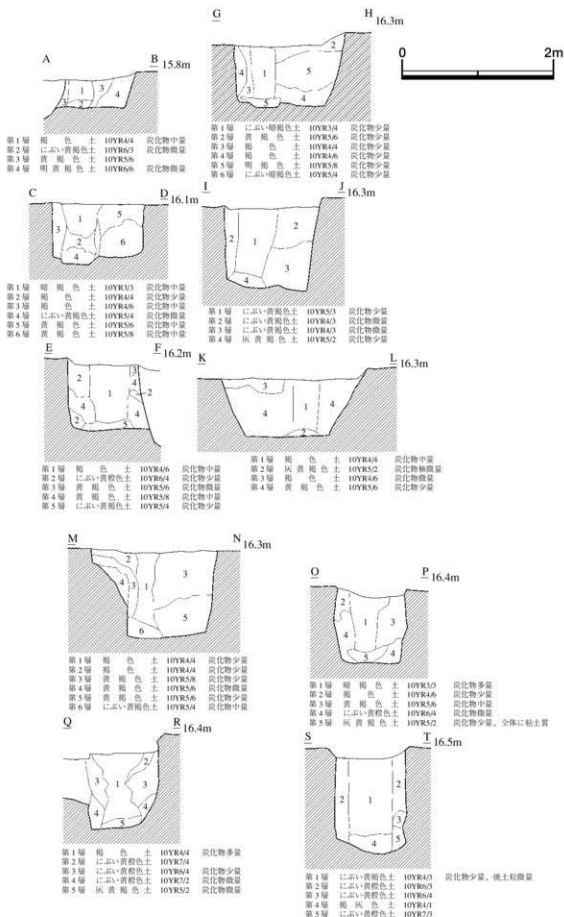
14图 第12号掘立柱建物跡(3)・第13号掘立柱建物跡



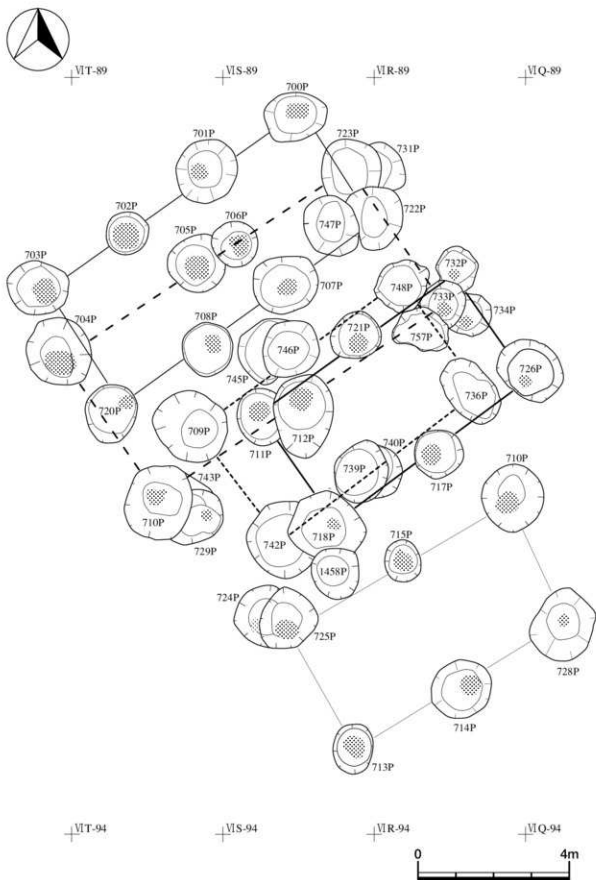
15图 第14号掘立柱建物跡(1)



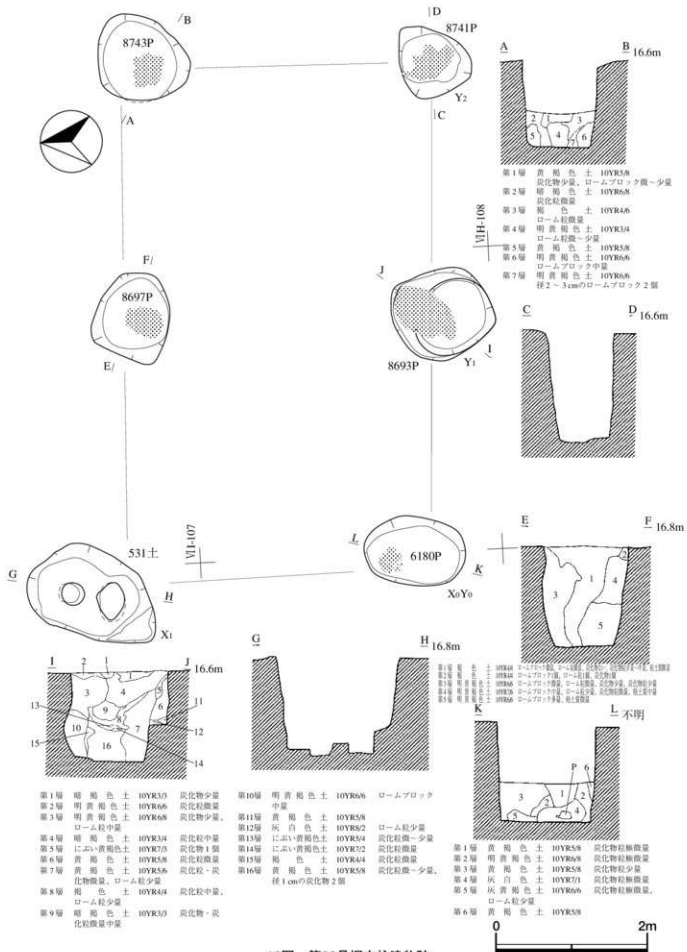
16图 第15号掘立柱建物跡(1)



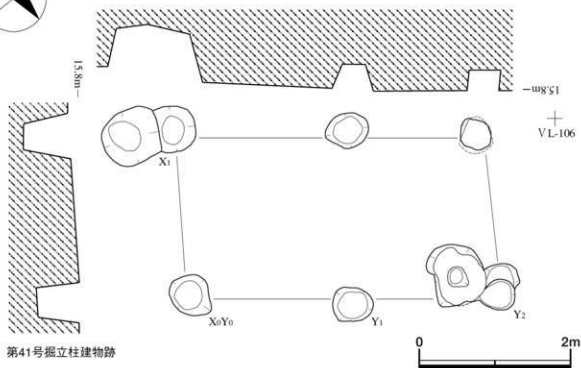
17図 第14・15号掘立柱建物跡(2)



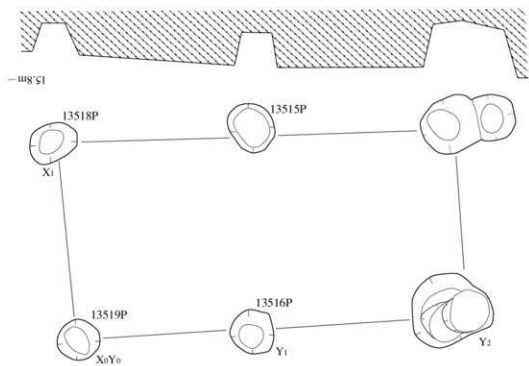
18図 北西部の掘立柱建物跡（今回報告分）



19図 第32号掘立柱建物跡

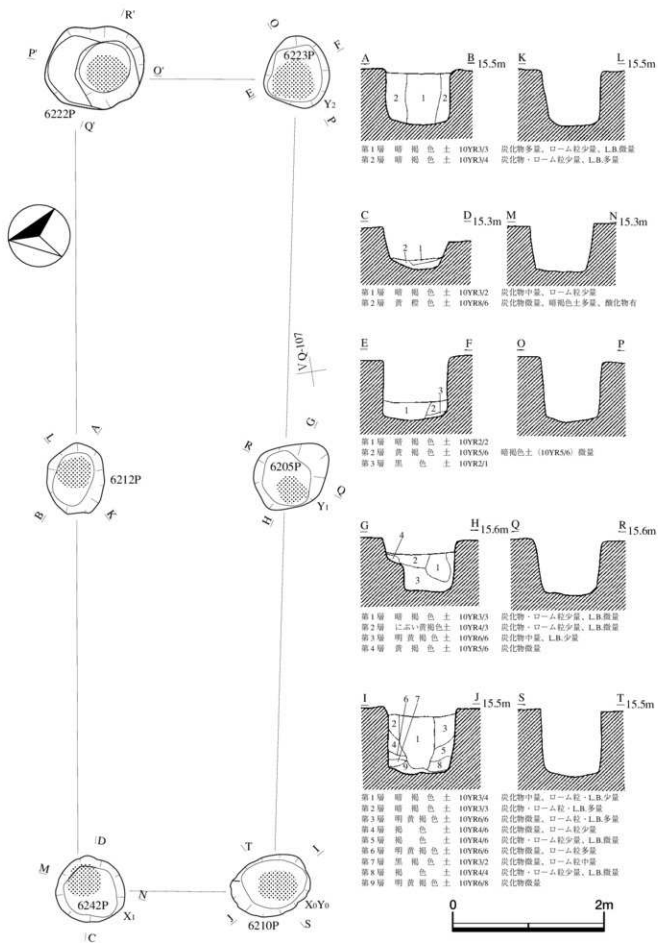


第41号掘立柱建物跡

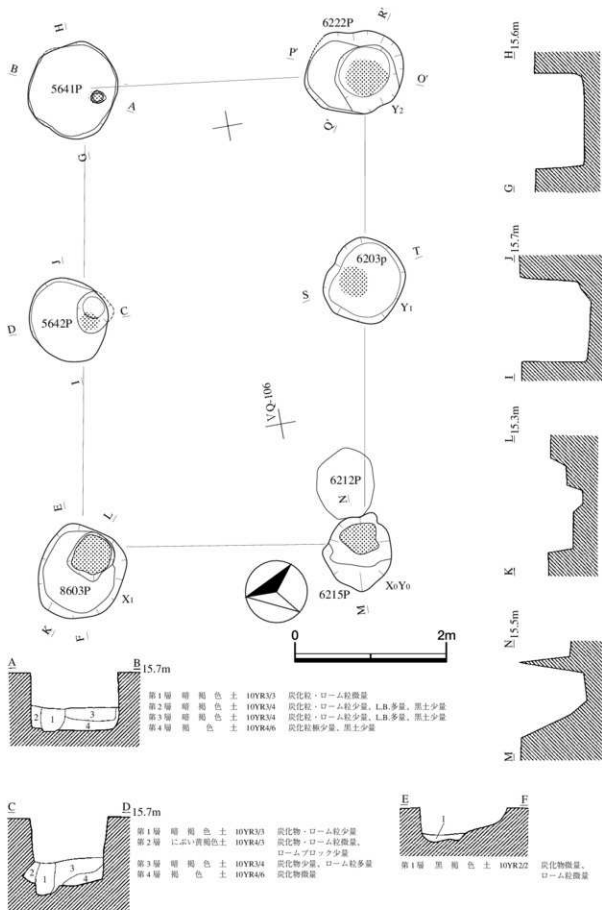


第42号掘立柱建物跡

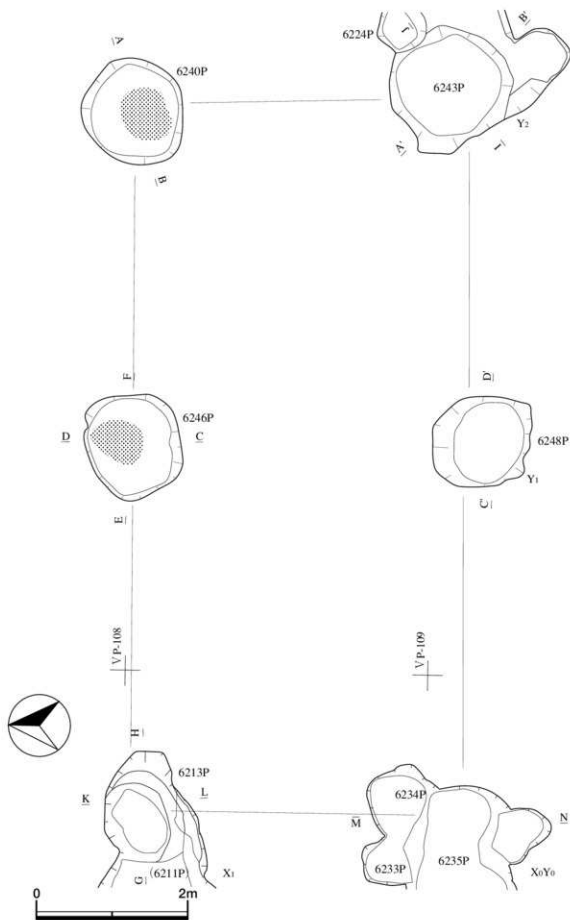
20図 第41・42号掘立柱建物跡



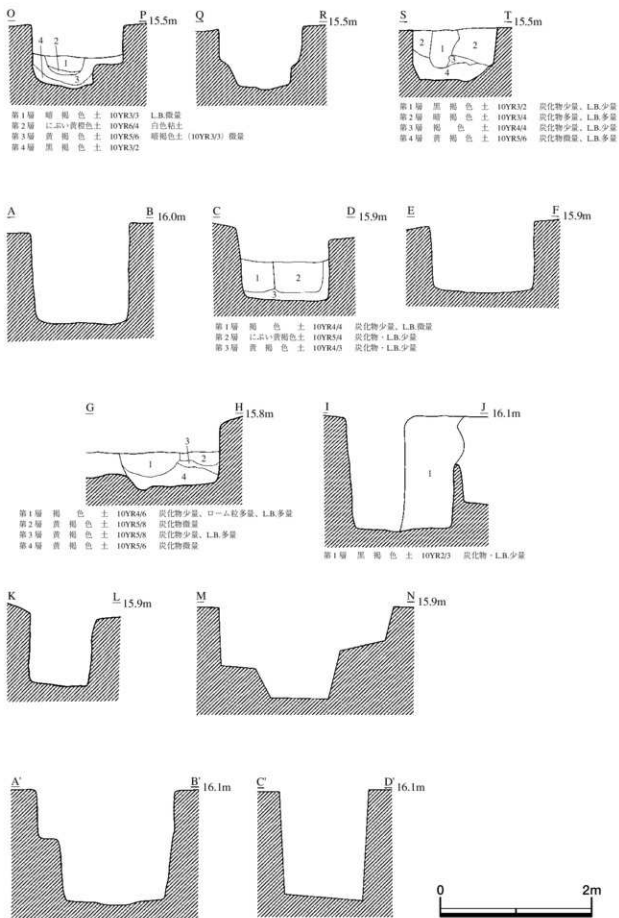
21图 第43号立柱建物跡



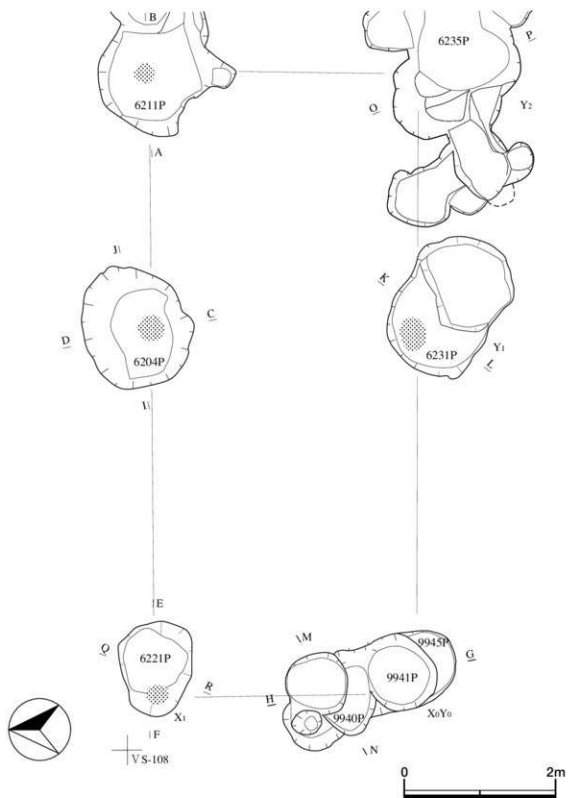
22図 第44号掘立柱建物跡(1)



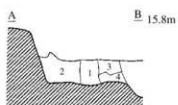
23图 第45号掘立柱建物跡(1)



24図 第43~45号掘立柱建物跡 (2)



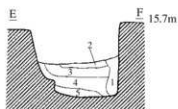
25图 第46号掘立柱建物跡(1)



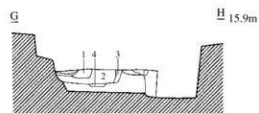
第1層 黒褐色土 10YR2/3 炭化物少量、ローム粒多量
 第2層 暗褐色土 10YR3/4 炭化物微量、ローム粒中量
 第3層 褐色土 10YR4/6 炭化物少量、ローム粒多量、
 径3~5cmのL.B.まばら、径1~2cmのL.B.多量
 第4層 黄褐色土 10YR5/8 炭化物微量



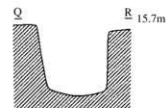
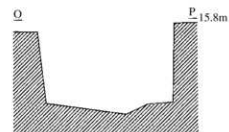
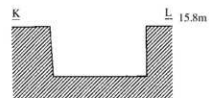
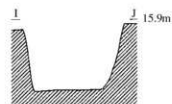
第1層 暗褐色土 10YR3/3 炭化物微量、径1~1.5cmのL.B.まばら
 第2層 黒褐色土 10YR3/2 炭化物少量、ローム粒多量、径0.5~2cmの
 L.B.多量、径3~5cmのL.B.まばら
 第3層 褐色土 10YR4/4 炭化物少量、ローム粒多量、径0.5~2cmの
 L.B.多量、径3~5cmのL.B.若干



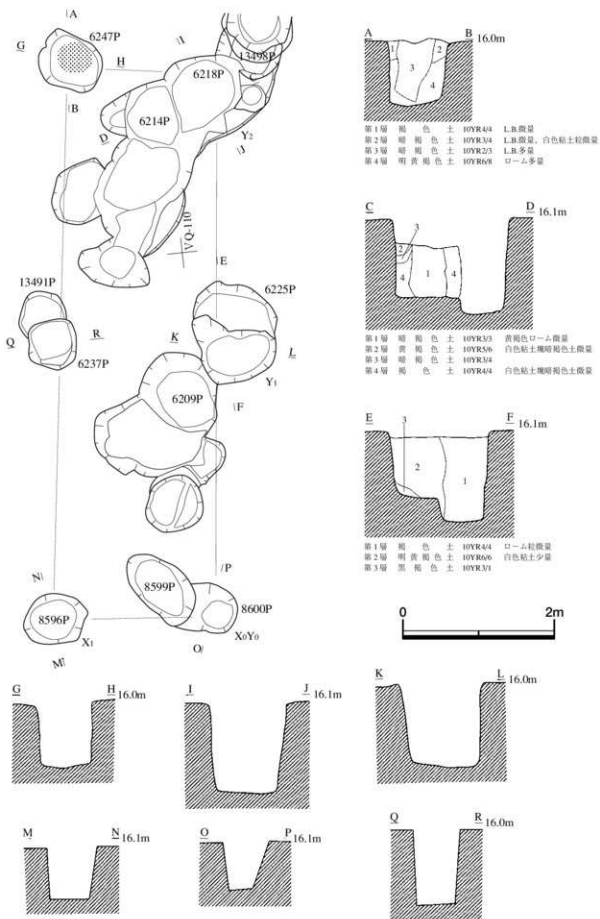
第1層 黒褐色土 10YR2/3 ロームブロック
 第2層 明黄褐色土 10YR6/6 ローム塊と黒褐色土の混合土
 第3層 暗褐色土 10YR3/3 ロームブロック微量
 第4層 褐色土 10YR4/4 暗褐色土
 第5層 暗褐色土 10YR3/3 ロームブロック微量



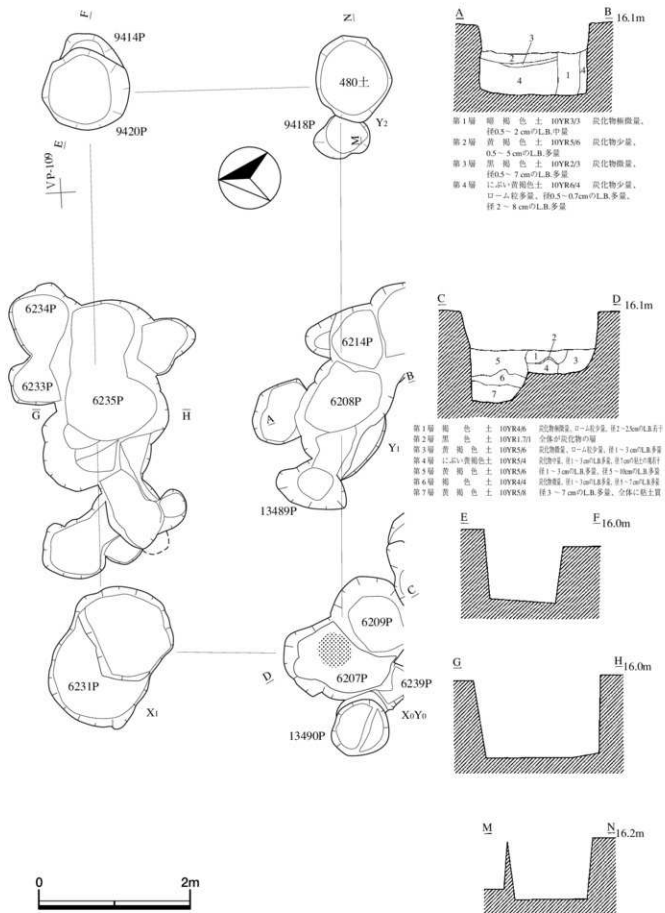
第1層 黄褐色土 10YR5/8 炭化物1%未満混入、褐色土3%程度混入
 第2層 褐色土 10YR4/4 炭化物1%混入、(67明黄褐色)の粘土ブロック
 40%程度混入
 第3層 褐色土 10YR4/6 炭化物微量、粘土ブロック・ロームブロック
 40%混入
 第4層 明黄褐色土 10YR7/6 混入物なし



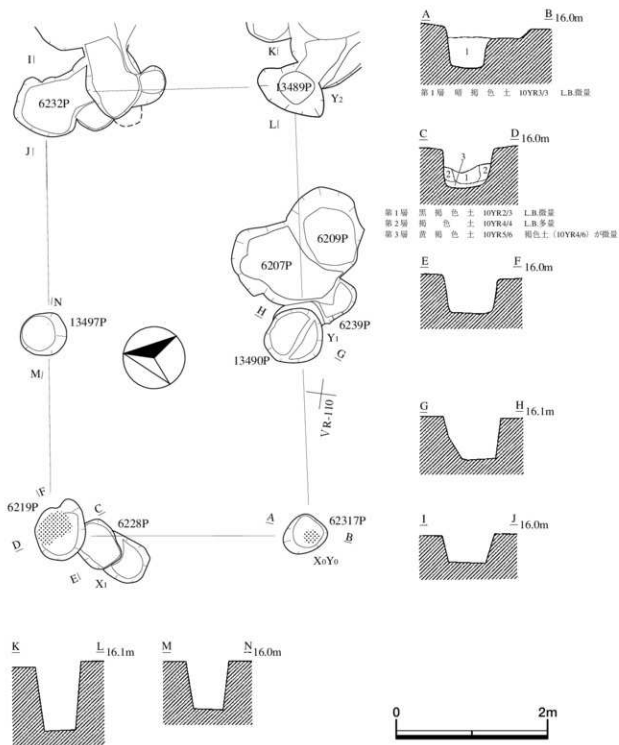
26図 第46号掘立柱建物跡 (2)



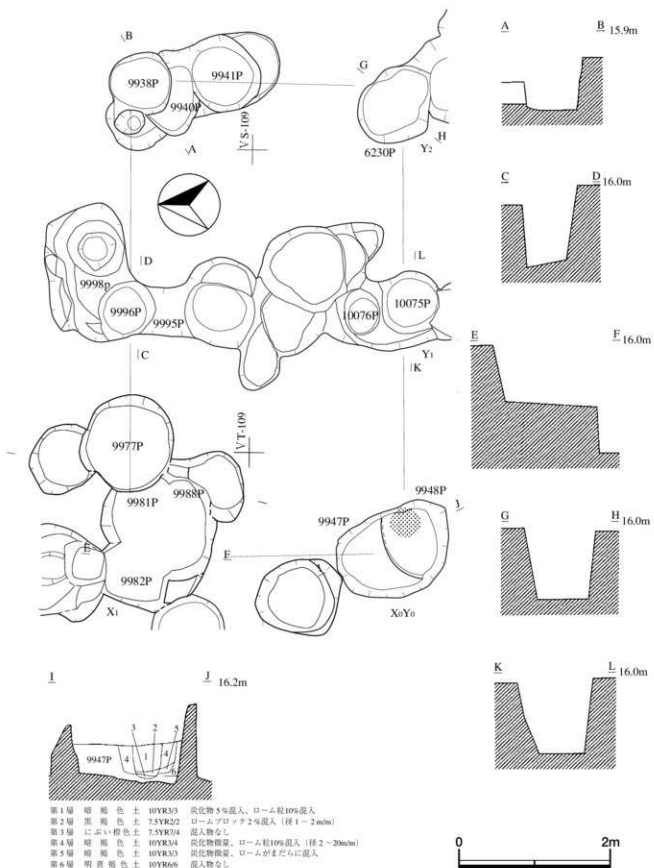
27图 第47号掘立柱建物跡



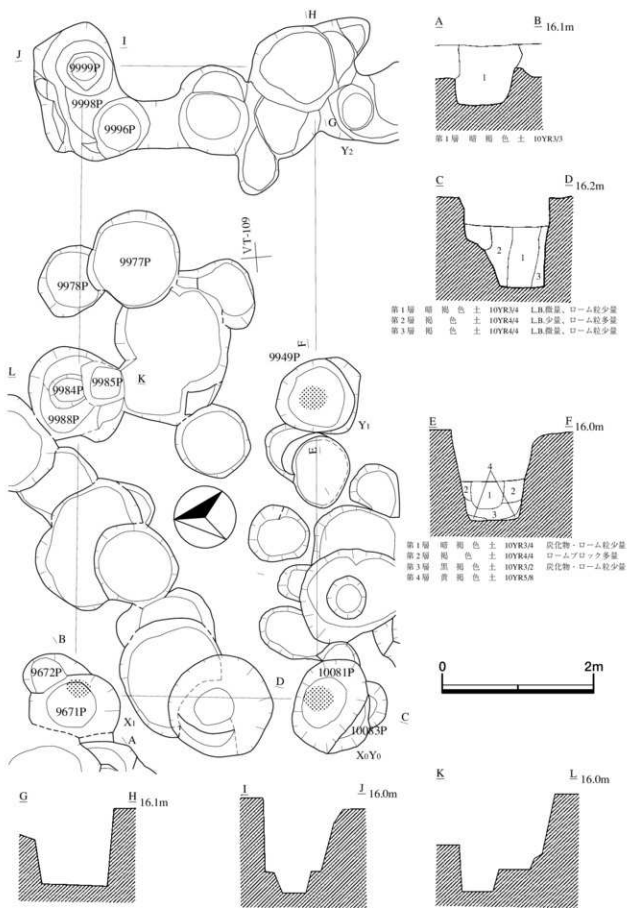
28図 第48号掘立柱建物跡



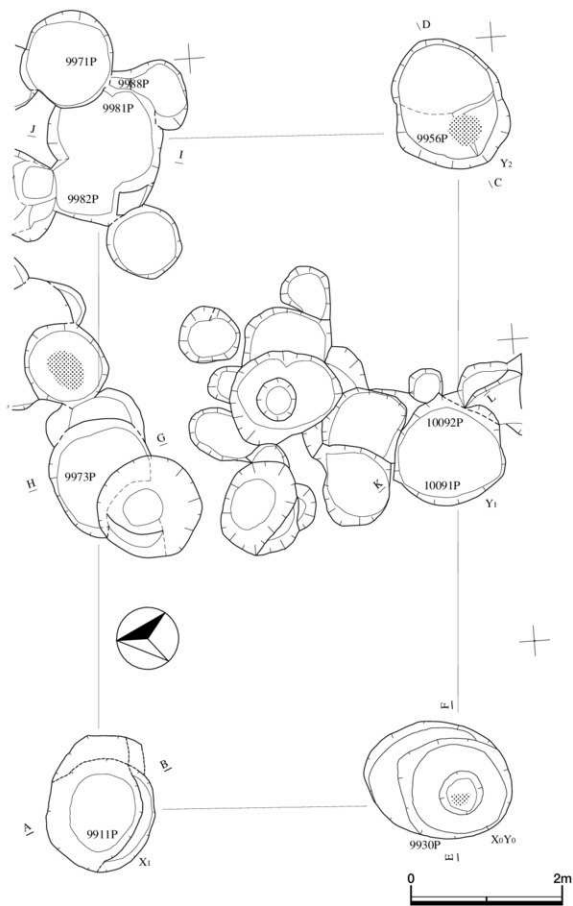
29圖 第49号掘立柱建物跡



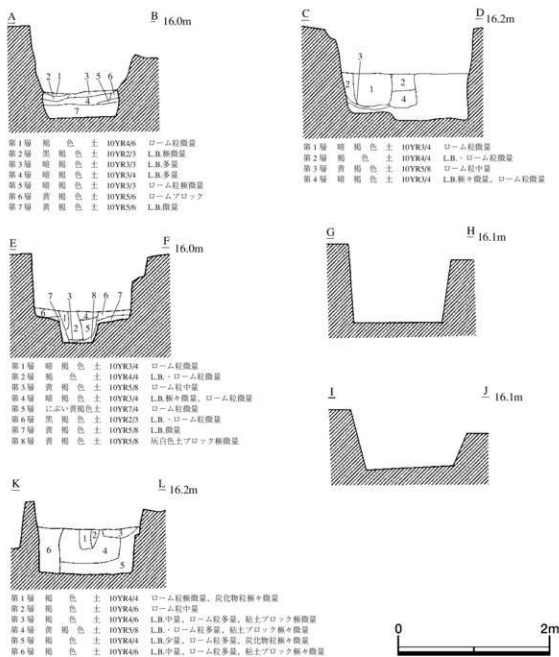
30図 第50号掘立柱建物跡



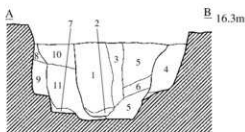
31図 第51号掘立柱建物跡



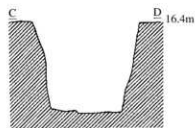
32图 第52号掘立柱建物跡(1)



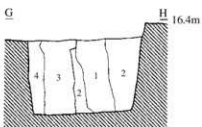
33図 第52号掘立柱建物跡 (2)



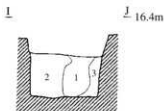
- 第1層 暗褐色土 10YR3/3 L.B.微量、ローム粒中量、炭化物粒微量
 第2層 黄褐色土 10YR6/3 灰黄褐色土・黄褐色土との混合
 第3層 暗褐色土 10YR4/4 L.B.・ローム粒中量、炭化物粒微量
 第4層 暗褐色土 10YR3/4 L.B.・ローム粒多量、粘土ブロック少量
 第5層 暗褐色土 10YR4/4 L.B.・ローム粒多量、粘土ブロック中量
 第6層 黄褐色土 10YR5/6 粘土ブロック微量
 第7層 暗褐色土 10YR4/6 L.B.・ローム粒微量
 第8層 暗褐色土 10YR4/6 L.B.微量、ローム粒少量
 第9層 暗褐色土 10YR4/6 L.B.微量、ローム粒多量
 第10層 暗褐色土 10YR4/4 L.B.・ローム粒多量
 第11層 暗褐色土 10YR4/6 L.B.・ローム粒多量



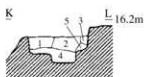
- 第1層 暗褐色土 10YR4/4 L.B.少量、ローム粒少量、炭化物粒微量、柱痕



- 第1層 暗褐色土 10YR3/4 L.B.微量、ローム粒中量、炭化物粒微量、柱痕
 第2層 黄褐色土 10YR5/8 L.B.中量、ローム粒少量、炭化物粒微量
 第3層 暗褐色土 10YR4/4 L.B.少量、ローム粒少量、炭化物粒微量、柱痕
 第4層 黄褐色土 10YR5/6 L.B.中量、ローム粒少量、粘土ブロック少量



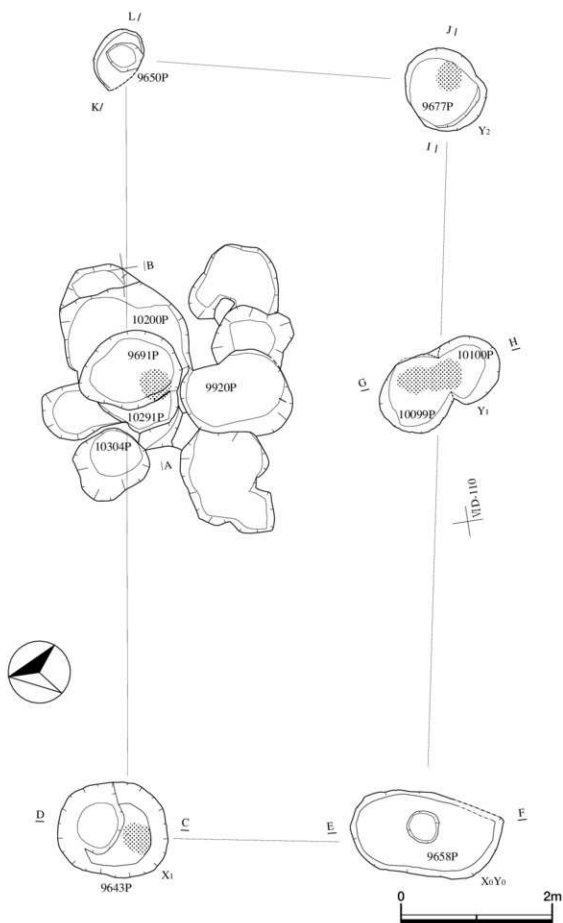
- 第1層 黒褐色土 10YR3/2 炭化物少量
 第2層 明黄褐色土 10YR6/6 浮石粒少量
 第3層 黄褐色土 10YR5/8 明黄褐色土のブロック混入



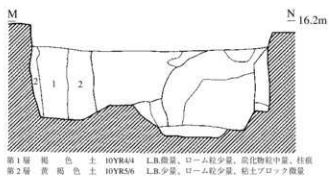
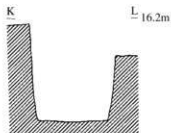
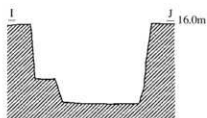
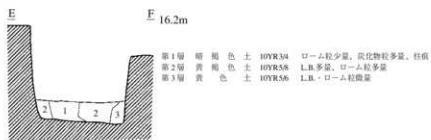
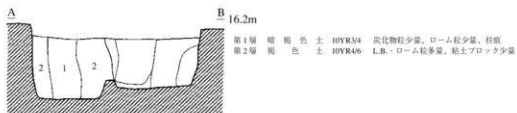
- 第1層 暗褐色土 10YR4/4 ローム粒少量、炭化物粒微量
 第2層 暗褐色土 10YR2/3 L.B.類微量、ローム粒多量、黑色土粒微量
 第3層 暗褐色土 10YR4/4 ローム粒多量、ロームと褐色土の混合層
 第4層 暗褐色土 10YR2/3 L.B.類微量、ローム粒多量、炭化物粒微量
 第5層 明黄褐色土 10YR6/8 褐色土微量



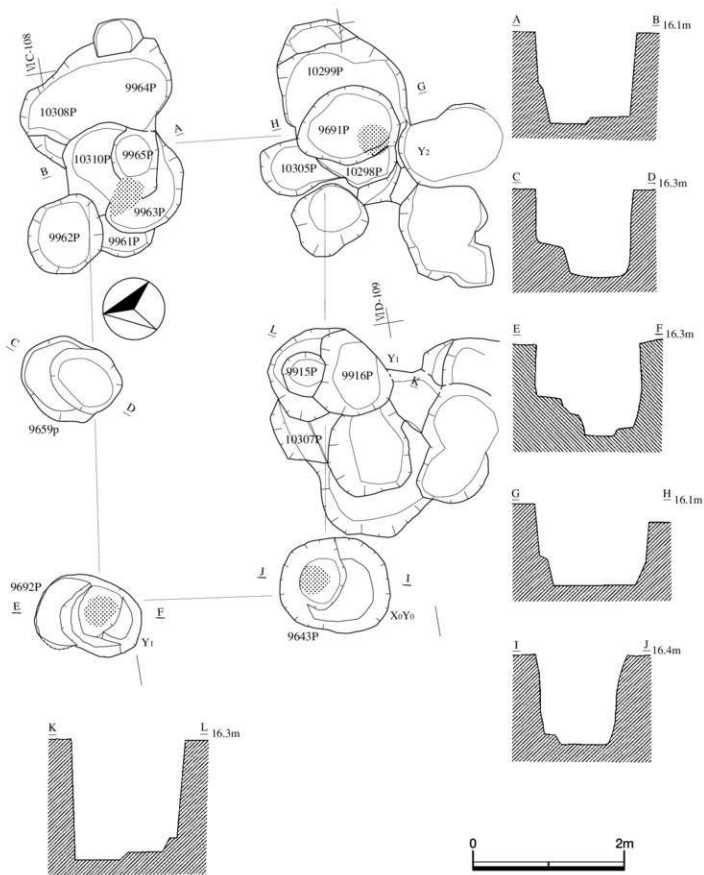
35図 第53号掘立柱建物跡(2)



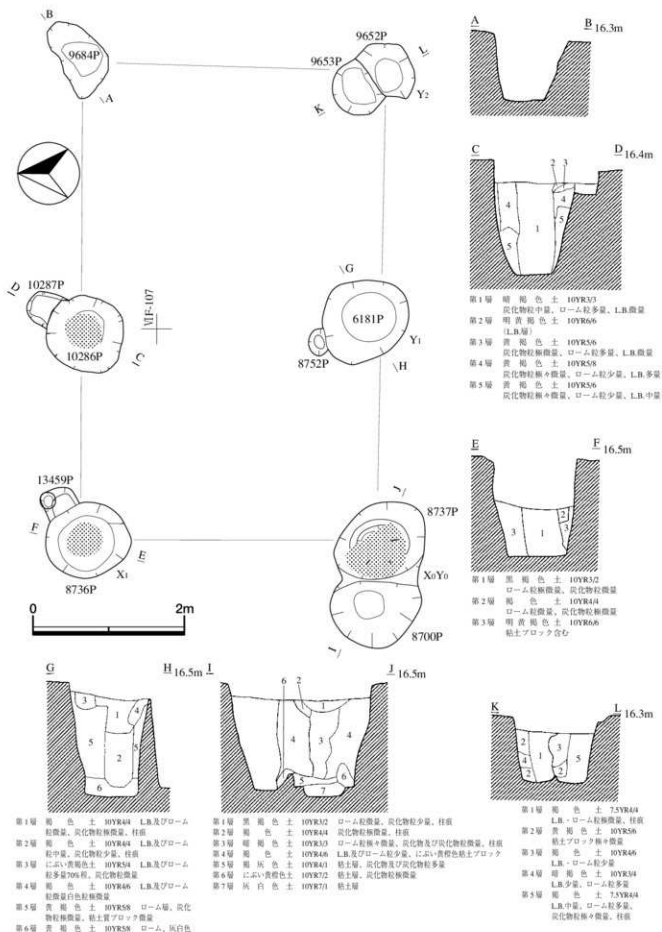
36图 第54号掘立柱建物跡(1)



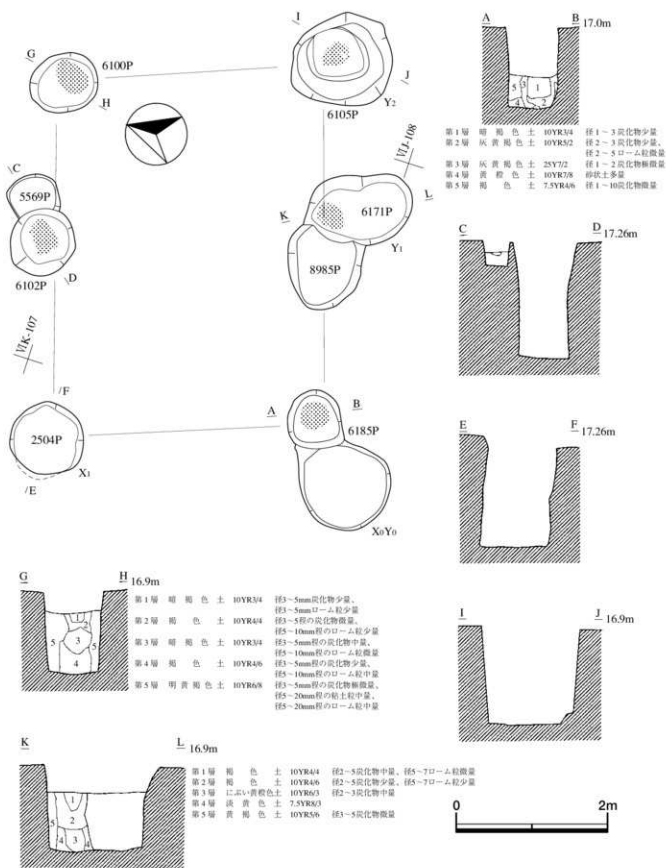
37図 第54号掘立柱建物跡(2)



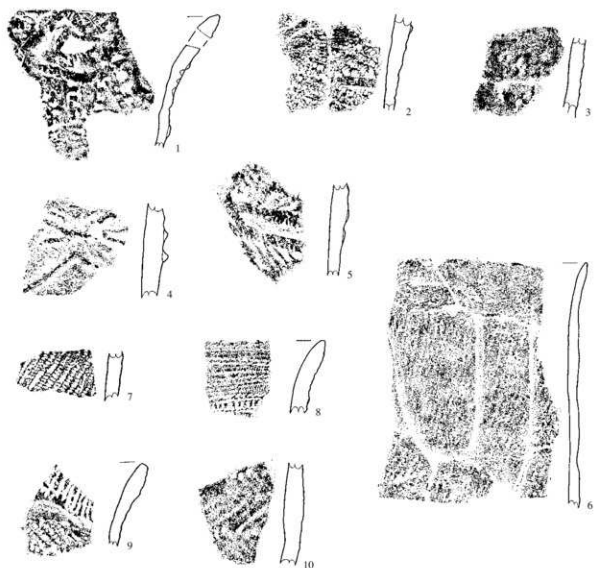
38图 第55号掘立柱建物跡



39図 第56号掘立柱建物跡



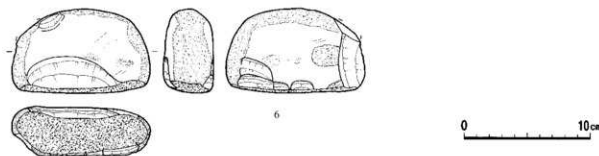
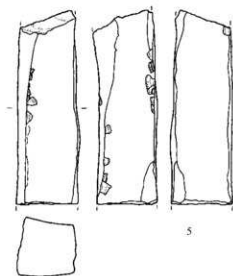
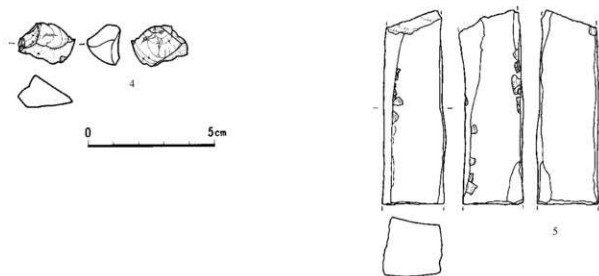
41図 第59号掘立柱建物跡



0 10cm

番号	出土地点	層位	外 面 文 様			内面調整	底面	分類	備 考	整理番号
			口縁部	胴部上半	胴部下半					
1	日掘立	堆積土	乱刻, ぬす, 物刺			ミガキ	Ⅲ-3	700ビット, 濃灰1層		
2	*	*		並斜(Ⅱ, LR), 梨目		*	Ⅲ-4	701ビット		
3	*	*		結束1 (RL, LR)		*	Ⅲ-6	*		
4	*	*		梨目		*	Ⅲ-4	702ビット		
5	*	*		並斜, Ⅱ, RL, Ⅱ, Ⅱ		*	*	703ビット		
6	*	*	無文	LR, 沈線		*	Ⅲ-10	*		
7	*	*		RL		*	Ⅲ-11	*		
8	*	*	並斜, Ⅱ, ヘリ削			*	Ⅱ-5-2	707ビット		
9	*	*	L押	結束1 (RL, LR)		*	Ⅲ-5	709ビット, 濃灰1層		
10	*	*		結束1 (LR, RL)		*	Ⅲ-6	707ビット		

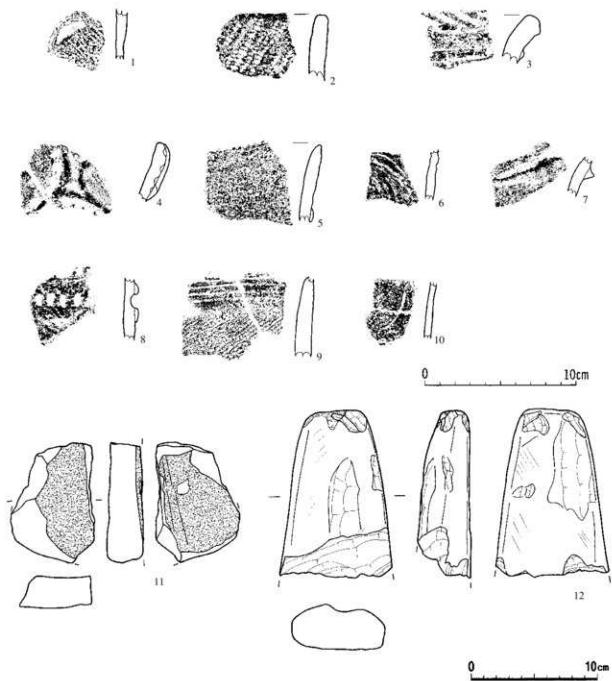
42図 掘立柱建物跡出土遺物 (1)



番号	出土地点	層位	外 面 文 種			内面調整	底面	分類	備 考	整理番号
			上縁部	胴部上半	胴部下半					
1	11掘立	堆積土		貼付、平行刺突		ミガキ		Ⅲ-3	708ビット	
2	〃	〃		沈線		〃		Ⅲ-5-8	〃	
3	〃	〃	全周彫理、凹凸溝		LR	〃		Ⅱ-5-2	708ビット、義経遺人	

番号	出土地点	層位	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重さ (g)	石 質	分 類	備 考	整理番号
4	11掘立	堆積土	16	22	13	3.4	黒	Pc	型ハコ記録参照	50313
5	〃	〃	(154)	(150)	(51)	(576.7)	流	Ua	703ビット 焼け	52533
6	〃	〃	67	110	39	458.2	凝	Oa	722ビット	52536

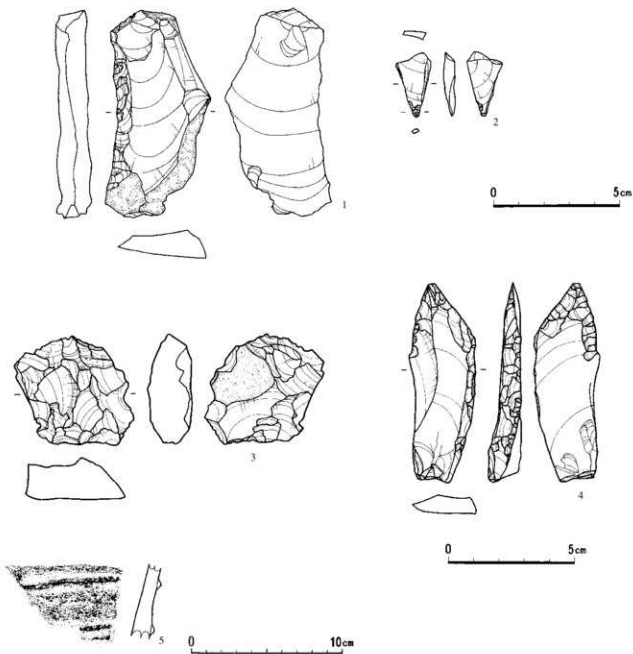
43図 掘立柱建物跡出土遺物 (2)



番号	出土地点	層位	外 面 文 様			内面調整	底面	分類	備 考	整理番号
			口縁部	胴部上半	胴部下半					
1	12層立	ワケ土		RL?		ミガキ		Ⅱ-11	704ビット	
2	*	*	RL			*		*	*	
3	*	堆積土	口唇へく裂み、胎付			*		Ⅱ-4	705ビット、液状1滴	
4	*	*	胎付、刺突		LR?	*		Ⅱ-10	*	
5	*	*	足(薄胎形)、縁部			*		Ⅱ-5-1	710ビット、液状1滴	
6	*	*	RL、沈線			*		Ⅱ-9	710ビット	
7	*	*	胎付					Ⅱ-11	*	
8	*	*	胎付、刺突			ミガキ		Ⅱ-3	712ビット	
9	*	*	R押	結束1 (LR, RL)		*		Ⅱ-5-1	723ビット、縁線記入	
10	*	*		横溝 (沈線、RL)		*		Ⅱ-10	723ビット	

番号	出土地点	層位	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重さ (g)	石 質	分 類	備 考	整理番号
11	12層立	堆積土	(96)	(66)	(29)	(240.2)	流	Sb	704ビット 焼酎	52534
12	*	*	(67)	(44)	(21)	(94.2)	黄白色 凝灰質土	Ha	705ビット	50320

44図 掘立柱建物跡出土遺物 (3)



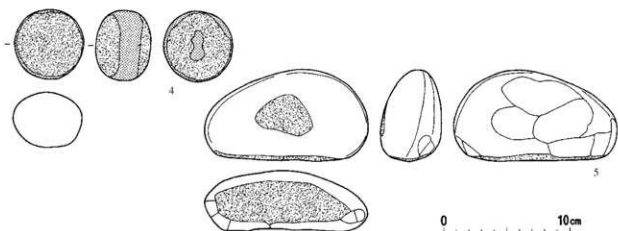
番号	出土地点	層位	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重さ (g)	石質	分類	備考	整理番号
1	12掘立	堆積土	82	42	14	40.3	珪質	Ga	710ビット	50325
2	+	+	25	14	4	1.0	*	Dc	712ビット	
3	13掘立	+	44	47	18	31.7	*	Ga	711ビット	53626
4	+	+	80	26	13	24.0	*	*	710ビット	53631

番号	出土地点	層位	外面文様			内面調整	底面	分類	備考	整理番号
			口縁部	胴部上半	胴部下半					
5	13掘立	堆積土	貼付			ミガキ		Ⅲ-4	709ビット	

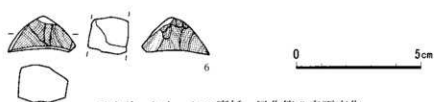
45図 掘立柱建物跡出土遺物 (4)



番号	出土地点	層位	外 面 文 様			内面調整	底面	分類	備 考	整理番号
			口縁部	胴部上半	胴部下半					
1	14團立	堆積土			R単純1	ミガキ		II-6	726ピット、横溝遺入	
2	＊	＊	貼 (L押)、刺突			＊		III-3	726ピット、遺坑口縁	
3	＊	＊	貼 (L押)			＊		III-6	＊	



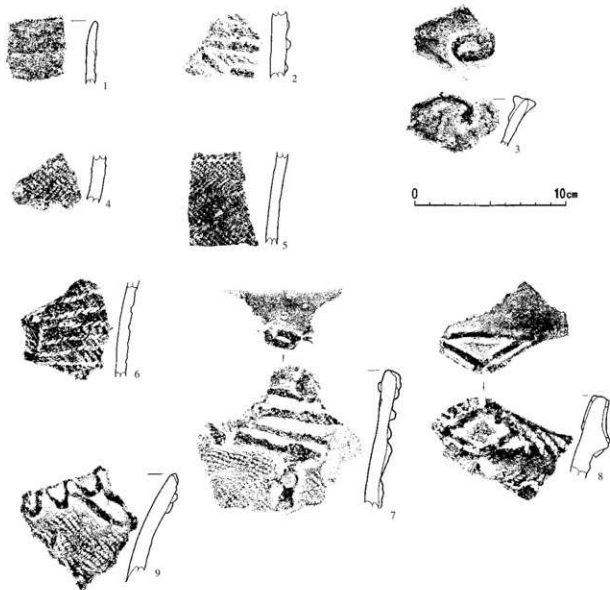
番号	出土地点	層位	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重さ (g)	石 質	分 類	備 考	整理番号
4	14團立	堆積土	55	54	44	19.0	安	Ic	717ピット	52535
5	＊	＊	72	129	48	614.5	＊	＊	726ピット 経路遺物	52624



スクリーントーン：磨耗・風化等の表面変化

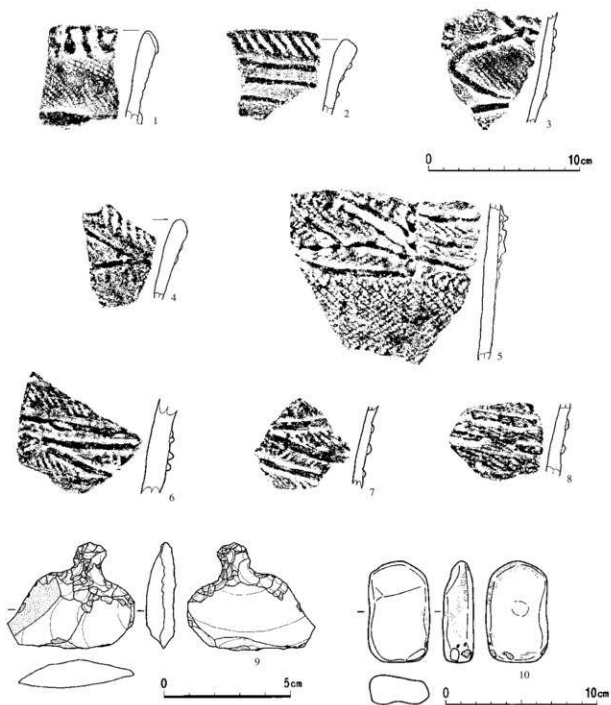
番号	出土地点	層位	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重さ (g)	石 質	分 類	備 考	整理番号
6	15團立	堆積土	(15)	(28)	(16)	(6.0)	黒	Ga	726ピット 赤部周縁	50337

46図 掘立柱建物跡出土遺物 (5)



番号	出土地点	層位	外 面 文 様			内面調整	底面	分類	備 考	整理番号
			口縁部	胴部上半	胴部下半					
1	15掘立	埴積土	折返口縁	沈線		ミガキ	Ⅲ-9	714ビット		
2	〃	〃		沈線・縦リ、横リ		〃	Ⅲ-4	〃		
3	〃	〃	ヒシ状貼付 (内外面)			〃	Ⅲ-10	725ビット		
4	45掘立	〃		結束1 (LR・RL)		〃	Ⅱ-4・Ⅱ-5-1	6246ビット		
5	〃	〃		結束1 (LR・RL)		〃	Ⅲ-6			
6	51掘立	〃		RL、RL押		〃	Ⅲ-4・5	9670ビット、意匠口縁		
7	〃	〃	巻居 (横リ、縦リ)、貼付	貼付、刺突、RL		〃	Ⅲ-4	〃、意匠口縁、意匠口縁		
8	〃	〃	巻居 (横リ、縦リ)、LR押	LR、貼付		〃	〃	〃		
9	〃	〃	貼付	RL		〃	〃	9670ビット、意匠口縁		

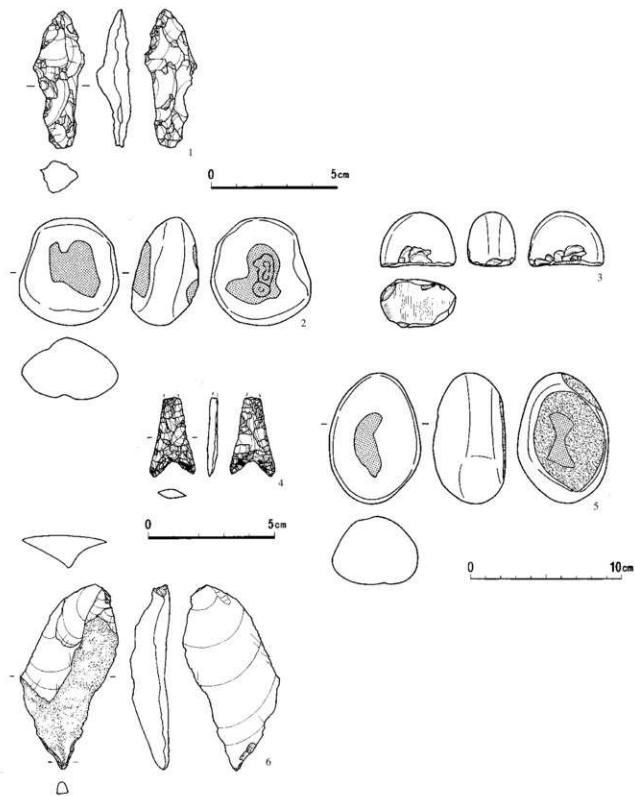
47図 掘立柱建物跡出土遺物 (6)



番号	出土地点	層位	外 面 文 様			内面調整	底面	分類	備 考	整理番号
			口縁部	胴部上半	胴部下半					
1	S1掘立	堆積土	貼付	RL, 貼付		ミガキ		Ⅲ-4	9671ピット	
2	"	"	RL押	結束付, 貼付		"		"	"	
3	"	"	"	RL, 貼付		"		"	"	
4	"	"	貼付, 捩糸圧痕	貼付		ミガキ		"	1000ピット, 表口溝	
5	"	"		粗刺(LR-RL), 貼付		"		"	10081ピット	
6	"	"		粗刺(LR-RL), 貼付		"		"	"	
7	"	"		粗刺(LR-RL), 貼付		"		"	"	
8	"	"		粗刺(LR-RL), 貼付		"		"	"	

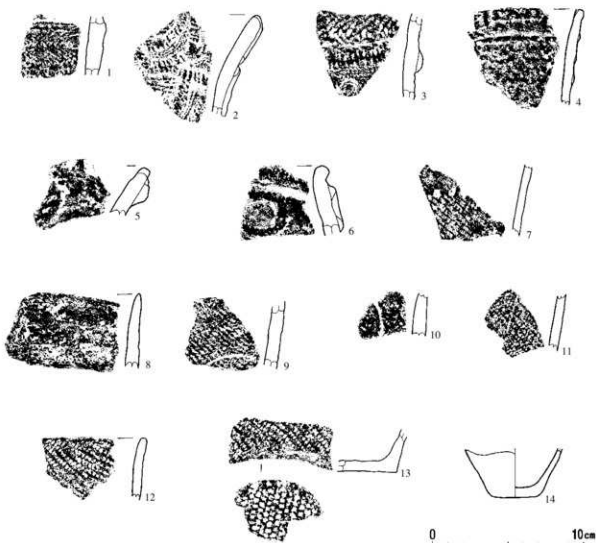
番号	出土地点	層位	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重さ(g)	石 質	分 類	備 考	整理番号
9	S2掘立	堆積土	42	50	11	19.9	埴頁	Cc	9973ピット	51418
10	"	"	80	49	24	150.2	頁	Ib	"	51419

48図 掘立柱建物跡出土遺物 (7)



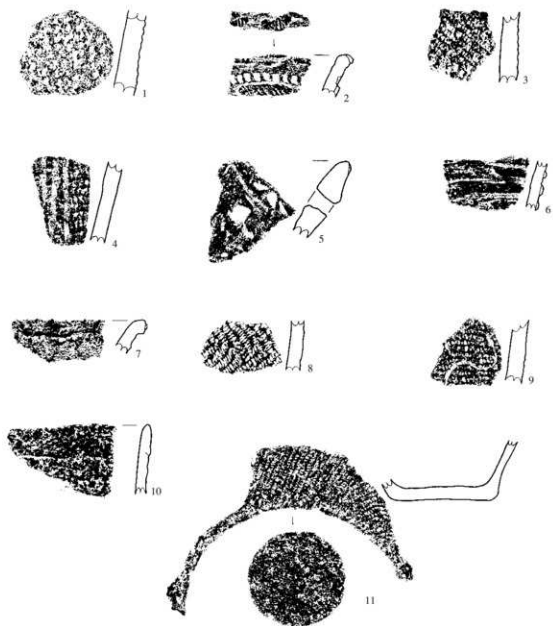
番号	出土地点	層位	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重さ (g)	石質	分類	備考	整理番号
1	52掘立	堆積土	55	20	14	9.7	珪質	Ga	9073ピット、石割	52610
2	56掘立	*	86	79	53	334.0	凝	Ib	8700・8737ピット	52597
3	*	*	43	59	38	69.0	凝	Q	8700・8737ピット、 掘立・埋積層の埋積層	52596
4	*	*	(31)	18	4	(1.6)	珪質	Af	806ピット、7577ピット	40446
5	32掘立	*	101	72	57	525.4	安	Ib	8741ピット	52598
6	*	*	74	39	15	23.5	珪質	Dc	8743ピット	51177

49図 掘立柱建物跡出土遺物 (8)



番号	出土地点	層位	外 面 文 様			内面調整	底面	分類	備 考	整理番号
			口縁部	胴部上半	胴部下半					
1	32彌立	堆積土	R押	結束I (LR-RL)				Ⅱ-5-1	8803ビット、鎌倉遺入	
2	＊	＊	刷 (刷、押、L押)			ミガキ		Ⅱ-1	8693ビット	
3	＊	＊	貼 (L押)、L押	結束I (LR-RL)		＊	＊	＊	＊	
4	＊	＊	貼付	貼付		＊	＊	Ⅱ-4	＊	
5	＊	＊	突起 (貼付)、RL押			＊	＊	Ⅱ-4-5	＊	
6	＊	＊	凹状沈線、貼付			＊	＊	Ⅱ-8	8803ビット、袋状口縁	
7	＊	＊		RL、竹管刺突				Ⅱ-9	8693ビット	
8	＊	＊	無文	沈線				Ⅱ-10	8803ビット、袋状口縁	
9	＊	＊		LR、沈線		ミガキ		Ⅱ-11	8693ビット	
10	＊	＊		磨滑 (RL、沈線)		＊	＊	＊	＊	
11	＊	＊		RL?、沈線				＊	＊	
12	＊	＊	RL			ミガキ		＊	＊	
13	＊	＊			RL	＊	綱代痕	＊	＊	
14	＊	＊			無文		無文	＊	8803ビット、小型土器	

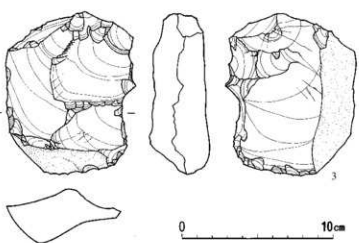
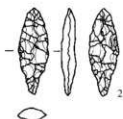
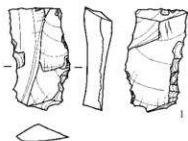
50図 掘立柱建物跡出土遺物 (9)



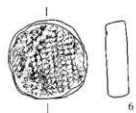
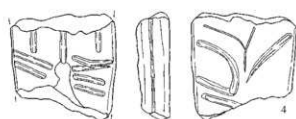
0 10cm

番号	出土地点	層位	外 面 文 様			内面調整	底面	分類	備 考	整理番号
			口縁部	胴部上半	胴部下半					
1	58雁立	堆積土			RLR	ミガキ		Ⅱ-6-Ⅲ-6	円蓋出土数品の可能性あり	
2	59雁立	*	貼 (L?押)	貼 (L?押), 刺突		*	*	Ⅲ-3		
3	*	*		RL		*	*	Ⅲ-6		
4	*	*		RL?, 沈線		*	*	Ⅲ-8-9		
5	*	*	突起 (座付, 首巻乱)			*	*	Ⅲ-3-4		
6	*	*		貼付			*	Ⅲ-4		
7	*	*	貼付				*	Ⅲ-6		
8	*	*		結束I (LR-RL)		ミガキ	*	*		
9	*	*		RL, 沈線		*	*	Ⅲ-10		
10	*	*	折返口縁 (LR?)			*	*	Ⅲ-11		
11	*	*			RL	*	*	*	F-6 座付遺物 (内面)	

51図 掘立柱建物跡出土遺物 (10)



番号	出土地点	層位	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重さ (g)	材質	分類	備考	整理番号
1	59掘立	堆積土	42	25	12	10.3	珪質	Ga	6171ビット	52260
2	〃	〃	35	12	6	1.6	〃	Ab	2504ビット	10658
3	〃	〃	66	52	14	81.6	〃	Gb	6180ビット	52261



番号	出土地点	層位	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重さ (g)	表面	裏面	種類	備考	整理番号
4	41掘立	堆積土	42	42	12	21.6	LRL単絡1	ミザキ	円盤状土製品	土器片利用	3939

番号	出土地点	層位	計測値 (mm)			文様		種類	備考	整理番号
			長さ	幅	厚さ	内面調整	底面			
5	51掘立	堆積土	(55)	(56)	(17)	沈線	沈線	土例	10081ビット、胴部	816

番号	出土地点	層位	外面文様			内面調整	底面	分類	備考	整理番号
			口縁部	胴部上半	胴部下半					
6	53掘立	堆積土			LR			ミニチュア土器	9924ビット、台付	1708

52図 掘立柱建物跡出土遺物 (11)

特別史跡三内丸山遺跡発掘調査報告書一覧（県教委発行分）

年度	書名	県埋蔵文化財報告書	内 容
昭和 51	近野遺跡発掘調査報告書(Ⅲ) 三内丸山(Ⅱ)遺跡発掘調査報告書 —青森県総合運動公園建設関係発掘調査—	第 33 集	昭和 51 年度に調査した県総合運動公園西駐車場地区の調査報告
昭和 53	近野遺跡発掘調査報告書(Ⅳ) —青森県総合運動公園建設関係発掘調査—	第 47 集	昭和 52 年度に調査した近野地区の調査報告
平成 5	三内丸山(2)遺跡Ⅱ —県営運動公園拡張事業に係る埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅰ—	第 157 集	平成 4 年度に調査した旧野球場建設予定地 3 塁側スタンド地区検出遺構
平成 5	三内丸山(2)遺跡Ⅲ —県営運動公園拡張事業に係る埋蔵文化財発掘調査概報Ⅰ—	第 166 集	平成 4～5 年度の調査概要報告
平成 6	三内丸山(2)遺跡Ⅳ	第 185 集	平成 6 年度に調査した旧サッカー場建設予定地の試掘調査報告
平成 7	三内丸山遺跡Ⅴ —第 1 次～4 次調査報告書—	第 204 集	平成 7 年度に実施した第 1 次～4 次調査の報告
平成 7	三内丸山遺跡Ⅵ	第 205 集	平成 4～7 年度の調査概要報告
平成 8	近野遺跡Ⅴ —県営運動公園拡張整備事業に伴う遺跡試掘調査報告Ⅰ—	第 216 集	平成 6～7 年度に調査した近野地区の試掘調査報告
平成 8	三内丸山遺跡Ⅶ —第 5 次～7 次調査概要報告書—	第 229 集	平成 8 年度に実施した第 5 次～7 次調査の概要報告
平成 8	三内丸山遺跡Ⅷ —第 6 鉄塔地区調査報告書Ⅰ—	第 230 集	平成 4～5 年度に調査した第 6 鉄塔地区の検出遺構及び第Ⅲ～Ⅴc 層の調査報告
平成 9	三内丸山遺跡Ⅸ —第 6 鉄塔地区調査報告書Ⅱ—	第 249 集	平成 4～5 年度に調査した第 6 鉄塔地区の第Ⅵ a・Ⅵ b 層及び自然科学分野の調査報告
平成 9	三内丸山遺跡Ⅹ —旧野球場建設予定地発掘調査報告書Ⅱ—	第 250 集	平成 4～6 年度に調査した旧野球場建設予定地の検出遺構のうち縄文時代の竪穴住居跡に関する調査報告
平成 9	三内丸山遺跡ⅩⅠ —第 5 次～7 次調査報告書—	第 251 集	平成 8 年度に実施した第 5 次～7 次調査の報告
平成 9	三内丸山遺跡ⅩⅡ —第 8 次～10 次調査概要報告書—	第 252 集	平成 9 年度に実施した第 8 次～10 次調査の概要報告
平成 10	三内丸山遺跡ⅩⅢ —第 11 次～13 次調査概要報告書—	第 265 集	平成 10 年度に実施した第 11 次～13 次調査の概要報告
平成 11	三内丸山遺跡ⅩⅣ —第 14 次～16 次調査概要報告書—	第 282 集	平成 11 年度に実施した第 14 次～16 次調査の概要報告
平成 11	三内丸山遺跡ⅩⅤ —旧野球場建設予定地発掘調査報告書Ⅲ—	第 283 集	平成 4～6 年度に調査した旧野球場建設予定地の検出遺構のうち縄文時代の竪穴住居跡に関する調査報告
平成 12	三内丸山遺跡ⅩⅥ —旧野球場建設予定地発掘調査報告書Ⅳ—	第 288 集	平成 4～6 年度に調査した旧野球場建設予定地の検出遺構のうち縄文時代の竪穴住居跡に関する調査報告
平成 12	三内丸山遺跡ⅩⅦ —第 6 鉄塔地区調査報告書Ⅲ—	第 289 集	平成 4～5 年度に調査した第 6 鉄塔地区の遺構外遺物に関する調査報告

平成 12	三内丸山遺跡 XⅧ —第 17 次～ 19 次調査概要報告書—	第 309 集	平成 12 年度に実施した第 17 次～ 19 次調査の概要報告
平成 13	三内丸山遺跡 XⅧ —第 20 次～ 22 次調査概要報告書—	第 337 集	平成 13 年度に実施した第 20 次～ 22 次調査の概要報告
平成 13	三内丸山遺跡 XⅧ —第 8 次・9 次調査報告書—	第 338 集	平成 9 年度に実施した第 8 次・9 次調査の報告
平成 14	三内丸山遺跡 21 —第 23 次～ 25 次調査概要報告書—	第 361 集	平成 14 年度に実施した第 23 次～ 25 次調査の概要報告
平成 14	三内丸山遺跡 22 —第 13・14・17・20 次発掘調査報告書—	第 362 集	平成 11～13 年度に実施した第 13・14・17・20 次調査の遺構に関する報告
平成 15	三内丸山遺跡 23 —第 23・26 次発掘調査報告書—	第 381 集	平成 15 年度に実施した第 26 次調査及び関連する平成 14 年度の 23 次調査の報告
平成 15	三内丸山遺跡 24 —第 13・14・17・20 次発掘調査報告書—	第 382 集	平成 11～13 年度に実施した第 13・14・17・20 次調査の遺構外遺物に関する報告
平成 15	三内丸山遺跡 25 —旧野球場建設予定地発掘調査報告書 5 埋設土器編—	第 383 集	平成 4～6 年度に調査した旧野球場建設予定地の検出遺構のうち縄文時代の埋設土器に関する調査報告
平成 16	三内丸山遺跡 26 —第 10 次・11 次・12 次・15 次・16 次・22 次調査 報告書—	第 404 集	平成 9・10・11・13 年度に実施した第 10 次・11 次・12 次・15 次・16 次・22 次調査の報告
平成 16	三内丸山遺跡 27 —旧野球場建設予定地発掘調査報告書 6 土坑編—	第 405 集	平成 4～6 年度に調査した旧野球場建設予定地の検出遺構のうち縄文時代の埋設土器に関する調査報告
平成 16	三内丸山遺跡 28 —第 27・28 次調査報告書—	第 406 集	平成 16 年度に実施した第 27 次調査の概要報告・第 28 次調査の報告
平成 17	三内丸山遺跡 29 —第 19・25・27・29 次調査報告書—	第 422 集	平成 12・14・16・17 年度に実施した第 19・25・27・29 次調査の報告

報 告 書 抄 録

ふりがな	さんないまるやまいせき さんじゅう
書名	三内丸山遺跡30
副書名	旧野球場建設予定地発掘調査報告書7 堅穴遺構・配石遺構・焼土遺構・掘立柱建物跡(1)
巻字	
シリーズ名	青森県埋蔵文化財調査報告書
シリーズ番号	第423集
編著者名	岡田康博・三浦孝仁・長瀬 昇・中村美杉・齋藤 岳・小笠原雅行・秦光次郎・田中珠美・寺嶋美晴
編集機関	青森県教育庁文化財保護課
所在地	〒030-8540 青森市新町二丁目3番1号 TEL 017-734-9924
発行年月日	西暦2006年3月31日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		旧日本測地系 (Tokyo Datum)	調査期間	調査面積 (m ²)	調査原因
		市町村	遺跡番号				
さんないまるやまいせき 三内丸山遺跡	あおもりけんあおもりし 青森県青森市 おおあごさんないあごまるやま 大字三内字丸山	02201	01021	40° 140°	・1992.4.20 ～11.30 ・1993.4.12 ～12.17 ・1994.4.4 ～11.18	38,000	県営運動公園拡張事業に係る事前調査
				48° 42'			
				40° 20'			
				日本測地系 (JGD2000)			
40° 140°							
48° 42'							
50° 07'							

所収遺跡	種別	主な時代	主な遺跡	主な遺物	特記事項
三内丸山遺跡	集落跡	縄文時代	柱穴遺構 1基 配石遺構 2基 焼土遺構 42基 掘立柱建物跡 24基	縄文土器(中期) 石 器 土 器 ミニチュア土器 円盤状土製品	縄文時代前・中期の 拠点集落跡の調査
要 約	1992年から1994年に実施した青森県総合運動公園拡張事業に伴う旧野球場建設予定地の発掘調査により、三内丸山遺跡は縄文時代前期中頃から中期末にかけての大規模な集落跡であることが判明した。既に報告書が刊行された縄文時代の住居跡・土坑・埋設土器遺構に続き堅穴遺構・配石遺構・焼土遺構の全てと掘立柱建物跡の一部を報告した。このうち遺跡北西部に作られた掘立柱建物跡は特に大型である。				

青森県埋蔵文化財調査報告書 第423集

三内丸山遺跡30

—旧野球場建設予定地発掘調査報告書7—
竪穴遺構・配石遺構・焼土遺構・掘立柱建物跡(1)

発行日 平成18年3月31日
発行 青森県教育委員会
編集 青森県教育庁文化財保護課
〒030-8540 青森市新町2丁目3-1
電話 017-734-9924
印刷所 ワタナベサービス株式会社
〒030-0802 青森市本町1丁目2-5

この印刷物は500部作成し、印刷経費は1部当たり1,880円です

